



(様式第 10)

大市大病第 5  
平成 29 年 10 月

厚生労働大臣 殿

開設者名 理事長 荒川 哲

大阪市立大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒558-8585 大阪市住吉区杉本3丁目3番138号
氏 名	公立大学法人 大阪市立大学 理事長 荒川 哲男

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大阪市立大学医学部附属病院
---------------

3 所在の場所

〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1-5-7	電話 (06) 6645-2121
-----------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科
④腎臓内科	⑤神経内科	⑥血液内科
⑦内分泌内科	⑧代謝内科	⑨感染症内科
⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績		
アレルギー疾患内科またはアレルギー科の内容は呼吸器内科、小児・新生児科、耳鼻いんこう科、皮膚科で診療している。		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科                      ②消化器外科                      ③乳腺外科                      4心臓外科 5血管外科                      ⑥心臓血管外科                      7内分泌外科                      ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科    ⑦産婦人科 8産科    9婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    ⑫放射線科    13放射線診断科 ⑭放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科
---

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科    2矯正歯科    ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 肝臓・胆嚢・膵臓内科	3 病理診断科	4 リハビリテーション科	5 糖尿病・代謝内科		
6 小児科(新生児科)	7 肝臓・胆嚢・膵臓外科	8 臨床検査科	9			
10	11	12	13	14		
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
38床	床	床	床	934床	972床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	520人	150人	670人	看護補助者	70人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	3人	0.5人	3.5人	理学療法士	12人	臨床検査技師	78人
薬剤師	55人	0人	55人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0.8人	0.8人	視能訓練士	7人	その他	3人
助産師	32人	0.8人	32.8人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	872人	75.3人	947.3人	臨床工学士	19人	医療社会事業従事者	17人
准看護師	2人	4.3人	6人	栄養士	0人	その他の技術員	17人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	0人	事務職員	250人
管理栄養士	9人	0.9人	9.9人	診療放射線技師	60人	その他の職員	213人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	46人	眼科専門医	12人
外科専門医	56人	耳鼻咽喉科専門医	17人
精神科専門医	10人	放射線科専門医	27人
小児科専門医	20人	脳神経外科専門医	17人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	31人
泌尿器科専門医	19人	麻酔科専門医	14人
産婦人科専門医	15人	救急科専門医	9人
		合計	301人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 平川 弘 聖 ) 任命年月日 平成28年4月1日

医療安全協議会	委員	平成12年6月13日	～	平成28年3月31日
	会長	平成28年4月1日	～	現在
オカレンス審議会	委員長	平成28年4月1日	～	現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	758.6人	0.5人	759.1人
1日当たり平均外来患者数	1,936.9人	30.0人	1,936.9人
1日当たり平均調剤数	1,219.8剤		
必要医師数	192人		
必要歯科医師数	3人		
必要薬剤師数	26人		
必要(准)看護師数	450人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	512.05m <sup>2</sup>	鉄骨造(耐火建築物)	病床数	24床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 190.26m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	19床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 55.78m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	562.45m <sup>2</sup>		(主な設備) 化学自動分析装置、グルコース分析装置 グリコヘモグロビン分析装置等			
細菌検査室	154.20m <sup>2</sup>		(主な設備) 全自動MGIT抗酸菌培養装置 遺伝子リアルタイムPCR装置等			
病理検査室	317.24m <sup>2</sup>		(主な設備) 自動染色装置、自動包埋装置、自動封入装置			
病理解剖室	67.53m <sup>2</sup>		(主な設備) 遺体保冷库、解剖台			
研究室	71.32m <sup>2</sup>		(主な設備) モニター、電子カルテ			
講義室	205.79m <sup>2</sup>		室数	1室	収容定員	166人
図書室	7.67m <sup>2</sup>		室数	1室	蔵書数	150冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	82.82%	逆紹介率	80.15%
算出根拠	A: 紹介患者の数	20,471人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	20,696人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	912人		
	D: 初診の患者の数	25,820人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長部研太郎	原・国分・長部 法律事務所 弁護士	○	地方自治体において倫理委員会等の委員を歴任されるなど人権や倫理に関する見識を有するため。	有・ <del>無</del>	1
矢野 雅彦	大阪国際がん センター 医療安全管理 部長		大阪府立成人病センターにおいて医療安全管理部門の副部長として従事され、また医療事故調査委員会の外部委員を歴任されるなど医療安全管理に必要な知識及び経験を有するため。	有・ <del>無</del>	1
辻 恵美子	がん患者サポ ートの会「ぎん なん」代表		がん患者サポートの会「ぎんなん」代表、大阪府がん対策推進委員会委員など公的機関の委員を歴任され、豊富な活動経験を有するため。	有・ <del>無</del>	2
大脇 和子	大阪市立大学 医学部附属病 院 副院長兼看護 部長		本院の副院長兼看護部長として病院管理運営や看護師育成など豊富な経験を有するため。	<del>有</del> ・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 大阪市立大学医学部附属病院の病院ホームページへの掲載	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
培養細胞によるライソゾーム病の診断	0人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	0人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	11人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による 骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	1人
難治性高コレステロール血症に随伴して重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	0人
FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断	1人
急性心筋梗塞に対するヒトIL-11製剤を用いた心筋保護療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	エンドキシン除去向け血液浄化器、ポリミキシンB固定化繊維カラム(PMX)による血液浄化療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 間質性肺炎の急性増悪患者に対し、PMX施行のブラッドアクセスとして主に患者の大腿静脈や内頸静脈にダブルルーメンカテーテルを挿入する。血液ポンプを用いて流量を60~100ml/分で直接血液灌流を行う。PMX施行時の抗凝固剤としてナファモスタットメシレートを用いる。			
医療技術名	アスペルギルス抗体の測定	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 慢性肺アスペルギルス症、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症患者に対し、採血の上、血液検査を行い、確定診断につなげる。			
医療技術名	難治性膠原病に対する細胞標的治療(リツキサン)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、点滴治療。			
医療技術名	難治性膠原病に対する免疫抑制治療(セルセプト・カプセル)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、経口投与する。			
医療技術名	早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後のトリアムシノロンアセトニドを用いた狭窄予防治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 既存の治療法や薬剤では効果が認められない、早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の狭窄予防に、トリアムシノロンアセトニドを用いた治療を施行する。			
医療技術名	食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後のトリアムシノロンアセトニドを用いた狭窄予防治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 既存の治療法や薬剤では効果が認められない、食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の狭窄予防に、トリアムシノロンアセトニドを用いた治療を施行する。			
医療技術名	ポリグルコール酸(PGA)シートとフィブリン糊を用いた消化管瘻孔の閉鎖有用性試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 上部消化管瘻孔の患者に対し、1. 瘻孔の周囲を、アルゴンプラズマ凝固装置で凝固。2. 吸収性組織補強材、ポリグルコール酸(PGA)シートを適切な大きさに形成し、内視鏡下に生検鉗子を用い瘻孔部位を被覆。3. 同部位に対して内視鏡下にペリプラストPを専用の注入器を用いて0.1~0.2mlずつA液、B液の順に散布する。			
医療技術名	ポリグルコール酸(PGA)シートとフィブリン糊を用いた食道癌術後瘻孔の閉鎖有用性試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 食道癌術後瘻孔の患者に対し、1. 瘻孔の周囲を、アルゴンプラズマ凝固装置で凝固。2. 吸収性組織補強材、ポリグルコール酸(PGA)シートを適切な大きさに形成し、内視鏡下に生検鉗子を用い瘻孔部位を被覆。3. 同部位に対して内視鏡下にペリプラストPを専用の注入器を用いて0.1~0.2mlずつA液、B液の順に散布する。			
医療技術名	トリアムシノロン局注療法ならびにポリグルコール酸(PGA)シートとフィブリンゲン加第XIII因子を用いた食道癌内視鏡切除後の狭窄予防	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 ESD直後にトリアムシノロンアセトニド注射液(ケナコルト®-A) 80mgを生理食塩水で計20mlに希釈し、切除直後の潰瘍辺縁および潰瘍底の粘膜下層に内視鏡用穿刺針(25G・4mm・トップ社製)にて0.5mlずつ局注する。引き続きPGAシートを適切な大きさに形成し、消化管内視鏡下に生検鉗子を用いて内視鏡切除後潰瘍を被覆する。同部位に対して散布チューブを用いてフィブリンゲン加第XIII因子を0.1~0.2mlずつA液、B液の順に散布する。			
医療技術名	肝硬変に合併した門脈血栓症に対するダナパロイドナトリウム投与による抗凝固療法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 入院中、第Xa因子阻害剤(ダナパロイドナトリウム)であるオルガラン静注1250単位を2週(1日あたり2瓶)点滴静注する。血栓が治療前と同程度あるいは増大していれば3週に延長する。			
医療技術名	大動脈炎症候群に対するトシリズムマブ治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 大動脈炎患者に対し、トシリズムマブ400mgを4週間隔で点滴静注する。(1年で14回を予定)			

医療技術名	小児のミトコンドリア病における遺伝子スクリーニング検査	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 現在、保険適応が認められていないミトコンドリア病(MELAS、MARRF、Leigh脳症など)におけるミトコンドリア遺伝子点変異のスクリーニング検査。			
医療技術名	原因不明の先天異常症候群・神経代謝疾患に対するマイクロアレイおよび次世代シーケンサーによる遺伝子変異解析法を用いた診断と治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 従来の検査では診断が不可能であり、病因不明である先天異常症候群、遺伝性神経疾患を有している患者において5-10mlの採血を行う。染色体における微細な欠失や重複異常が検出できる。マイクロアレイ検査で検出不可能な遺伝子変異は次世代シーケンサーで解析を行う。患者の診断が可能となり、治療と予後説明が可能となる。			
医療技術名	小児の液性免疫関連神経疾患に対する抗CD20モノクローナル抗体治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 オプソクローヌス・ミオクローヌス症候群や小児のMOG抗体関連視神経炎など液性免疫が関与した難治性の神経疾患で、ステロイド依存性を示す患者に対して、リツキシマブの保険適応である難治性のネフローゼ症候群に対する使用方法に準じて、1回量375mg/m <sup>2</sup> を1週間間隔で4回点滴静注する。ただし、1回あたりの最大投与量は500mgまでとする。			
医療技術名	メンケス病に対するヒスチジン銅とノックピン併用療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 先天性の銅代謝異常症で、銅要求性の酵素の活性低下により、精神発達遅滞、成長障害、血管異常、膀胱憩室などの臨床症状を来し、重度心身障害に至る。ヒスチジン銅の皮下注により臨床症状の改善が期待されるが、中枢神経系など組織への移行が悪く今回、銅キレート作用のあるノックピンを併用することに、効果を期待する。			
医療技術名	神経型ゴーシェ病を対象としたアンプロキシソール(ムコソルバン)を用いたシャペロン療法の有効性と安全性に関するオープンラベル試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 アンプロキシソールは去痰剤としての用量の3倍量(成人1日135mg、小児1日2.7mg/kg)で投与を開始する。副作用、酵素活性の変動を見ながら3ヶ月毎に通常量の6倍(1日270mg)、9倍(405mg)、12倍(540mg)までの増量を行う。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫を含む皮膚悪性腫瘍に対して、術前に、核医学室で放射線同位元素を皮内注射する。ガンマカメラで集積部位にマーキングする。手術当日はガンマプローブで集積部位の同定する。パテントブルー2.0%を併用してセンチネルリンパ節を摘出する。			
医療技術名	免疫チェックポイント阻害薬の重篤な免疫関連副作用における高用量ステロイド療法不能な根治切除不能悪性黒色腫に対するインフリキシマブ療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 免疫チェックポイント阻害剤(ニボルマブ・イビリムマブ)の重篤な免疫関連副作用に対して、高容量ステロイド療法(メチルプレドニゾン1-2mg/kg/日)を行っても、3-5日超えて持続、または症状改善後に再発した場合に、協力的免疫抑制剤としてインフリキシマブ(5mg/kg)1回を点滴静脈内投与する。			
医療技術名	表皮内皮膚癌(頭頸部以外日光角化症・ボーエン病、表在型基底細胞癌、乳房外パジェット病)におけるベセルナクリーム療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 皮膚組織検査で表皮内皮膚癌と診断された症例に、ベセルナクリーム外用療法を行う。各疾患のプロトコールにしたがって外用し、皮膚組織検査を行い腫瘍細胞の残存の有無を確認する。			
医療技術名	ウイルス性疣贅(尋常性疣贅、扁平疣贅)、伝染性軟属腫に対するイミキモド5%クリームの使用	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ウイルス性疣贅についてはダーモスコピーもしくは皮膚組織検査、伝染性軟属腫においては摘除時の臨床所見もしくは病理組織検査で診断された症例に、ベセルナクリーム外用療法を行う。臨床症状、ダーモスコピーで効果判定する。			
医療技術名	小児膿疱性乾癬に対するメトレキサート治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 小児膿疱性乾癬の患者に対して、1回投与量は10~15mg/m <sup>2</sup> /週を内服する。効果不十分の場合には高用量の20~30mg/m <sup>2</sup> /週の投与を検討する。			
医療技術名	膿疱性乾癬に対するアダリムマブ治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 小児では、体重15kg以上30kg未満の場合は、アダリムマブ20mgを、体重30kg未満の場合は、40mgを2週間に1回、皮下注射する。成人では、初回にはアダリムマブとして、80mgを皮下注射し、2週間に1回、40mgを皮下注射する。なお、効果不十分な場合、1回80mgまで増量する。			
医療技術名	胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 高齢による低肺機能等で外科的切除が困難な患者に対し、病変径3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、ラジオ波通電による焼灼を行う。CT観察したで実施することにより、局所の正確な治療が可能で1結節の治療時間は1~2時間程度となり入院期間は5~6日である。			

医療技術名	腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 高齢や併存疾患等で外科的切除術が困難な患者に対し、病変径は3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、ラジオ波の通電による焼灼を行う。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度となり入院期間は7～8日である。			
医療技術名	骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 既存の治療方による制御が困難な骨腫瘍(良性の類骨腫瘍等や悪性骨腫瘍)を対象として、疼痛軽減による症状緩和を目指す治療法である。局所麻酔後、CTガイド下で経皮的(必要に応じて手術室で全身麻酔下にナビゲーションシステムによる直視下)に電極を刺入し標的病変に命中したことをCT(またはナビゲーション)で確認し、ラジオ波通電による焼灼を行う。画像観察下実施することにより局所のみを正確に治療することが可能である。			
医療技術名	軟部腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 侵襲の大きい切除術を避けることが望まれ、かつ本療法による病変の縮小や疼痛の緩和が期待できる、転移等の軟部性悪性腫瘍を対象とする。局所麻酔後、CTガイド下(必要に応じて手術室にて全麻下ナビゲーションシステム)で電極針を標的病変に刺入し、ラジオ波の通電による焼灼を行う。画像観察実施することにより、局所の正確な治療が可能である。			
医療技術名	肩関節周囲炎に対する動脈塞栓術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 既存の治療法により疼痛制御が困難な肩関節周囲炎患者を対象とする。局所麻酔後、橈骨動脈を穿刺し、肩関節の動脈にカテーテルを挿入する。異常濃染のある血管を選択した後、イミペナム(チエナム)にて塞栓を行う。			
医療技術名	ダヴィンチサージカルシステムを用いた腹腔鏡下胃切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 ダヴィンチサージカルシステムを用いて腹腔鏡下胃切除術を施行する。			
医療技術名	脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾中央切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 脾中央切除術を行うに際し、腹腔鏡を補助的に使用する。具体的には、腫瘍部を含めた脾中央部の切除に際し腹腔鏡を使用する。後半に行う脾消化管吻合は開腹下で行う。			
医療技術名	人工弁周囲逆流に対する経カテーテル的閉鎖術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 経大腿動脈的、あるいは経心尖部アプローチから、人工弁周囲逆流を来している欠損孔にワイヤー、カテーテルを挿入後、AMPLATZER VASCULAR PLUGを通常複数個留置し、逆流を制御する。			
医療技術名	末梢血管病変に対するCovered Stentの使用	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 国内で使用可能なステントグラフトでは適合しない、小口径の末梢血管に対する血管内治療を要する患者を対象とする。現在、小口径の血管に対するステントグラフトの使用は、腹部大動脈瘤のステントグラフトの脚を使用しているが、8mm以下の口径の血管の様々な病変に対しての使用は困難である。パードフルーエンシーは国外では血管内治療に使用される小口径のcovered stentであり、これを使用することで小口径の血管病変に対しての血管内治療が可能となる。			
医療技術名	冠動脈バイパス手術におけるグラフトの内視鏡的採取	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 冠動脈バイパス手術において大伏在静脈をグラフトとして使用する症例で、内視鏡による採取が望ましい患者を対象とする。大伏在静脈の走行をエコーで確認し、2cm程度の皮膚切開から露出する。その後、内視鏡で確認しながら剥離、枝の切離を行い、採取をする。採取した大伏在静脈グラフトは、冠動脈バイパス手術に使用される。			
医療技術名	胸腹部大動脈瘤に対する分枝付きあるいは開窓型ステントグラフト血管内治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 治療の適応となる胸腹部大動脈瘤患者のうち、通常の開胸・開腹手術では極めてリスクの高い患者を対象とする。胸腹部大動脈瘤に対して、Zenith t-Branch Endovascular Graft あるいは Cook Custome Aortic Endograftを用いて治療を行う。			
医療技術名	心臓手術を行う慢性心房細動患者に対する体内固定用組織ステーブルを用いた左心耳切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 慢性心房細動を伴う心臓手術患者のうち、左心耳閉鎖が将来にわたって血栓塞栓症の予防に有効であると判断され、且つ通常的心臓手術で行われる左心耳縫縮術や切離術が手術侵襲を大きくすると考えられ患者を対象とする。慢性心房細動患者の血栓塞栓症発症予防に左心耳閉鎖術は有効である。慢性心房細動を合併する心疾患の心臓手術時に、体内固定用組織ステーブルを用いて左心耳を離断する。			
医療技術名	心臓手術を行う慢性心房細動患者に対する体内固定用組織ステーブルを用いた左心耳切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 慢性心房細動を伴う心臓手術患者のうち、左心耳閉鎖が将来にわたって血栓塞栓症の予防に有効であると判断され、且つ通常的心臓手術で行われる左心耳縫縮術や切離術が手術侵襲を大きくすると考えられ患者を対象とする。慢性心房細動患者の血栓塞栓症発症予防に左心耳閉鎖術は有効である。慢性心房細動を合併する心疾患の心臓手術時に、体内固定用組織ステーブルを用いて左心耳を離断する。			
医療技術名	大動脈内視鏡による観察	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 胸部ステントグラフト内挿術を行う患者を対象とする。胸部ステントグラフト内挿術には、10%以上の大動脈イベントが近接、遠隔に起こる。術中に大動脈内視鏡を用いて大動脈イベントの原因を発見し、未然に防ぐ。			

医療技術名	C11-メチオニンPET	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 院内サイクロトロンで製造したC-11を標識したメチオニンを合成する。この薬剤を静脈内投与し、30-40分間PETカメラにて関心部位の撮像をおこなう。腫瘍の存在範囲、悪性度の評価、腫瘍と他疾患との鑑別など評価する。			
医療技術名	ワダテストにおけるプロポフォールの動脈内投与	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 難治性てんかんに対する焦点切除あるいは、脳腫瘍(とくに神経膠腫)摘出の術前患者で、術前に運動、言語、記憶の左右優位性を確認する必要がある症例を対象とする。大腿動脈穿刺によりカテーテルを片側の内頸動脈まで上行させ、10倍希釈のプロポフォールを動脈内投与する。反対側の片麻痺が出現した地点で投与を終了し言語タスク(復唱、物品呼称)、線分二等分試験、再認課題を行う。左右優位性の決定は、各課題のスコアで判断する。			
医療技術名	経皮的内視鏡下椎間板摘出術(PED/PELD)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 腰椎椎間板ヘルニア患者に対し、局所麻酔もしくは静脈麻酔下に腹臥位となり、皮膚に8mmの穴を開け、そこから内視鏡と専用の手術器具を挿入してヘルニアを切除する。			
医療技術名	末梢神経絞扼性障害の除圧範囲決定における術中神経栄養血管造影および電気生理学的検査の応用	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 末梢神経障害で手術を受ける患者を対象に、手術で、罹患神経を展開し、赤外蛍光法と超音波検査機器を用いて、神経絞扼部の血流を評価する。その際にジアグノグリーンやペルフルブタンを用い、神経の血流を造影する。また、神経の除圧効果を電気生理学的検査を用いて行う。			
医療技術名	細胞培養依託システムを使用した関節鏡視下自己骨髄間葉系細胞移植による関節軟骨欠損修復	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 膝軟骨欠損に対して、自己骨髄間葉系幹細胞移植が可能な症例に対して陽骨より骨髄液を採取し、骨髄間葉系細胞を培養する。必要細胞数まで増やしたら、細胞浮遊液としてヒアルロン酸を加えて、関節鏡を使用し関節内に移植する。			
医療技術名	骨・関節疾患治療に対する3Dプリンターの応用	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 骨・関節疾患を対象に、骨変形の強制的評価や手術をサポートする装置などを3Dプリンターを用いて作成する。実際には対象患者に通常のCT撮影を行い、そのデータを用いる。データを元に、骨変形に必要な矯正を3Dプリンターを用い、シミュレーションを術前に行ったり、正確な手術が可能になるような簡易の装置などを3Dプリンターを用いて作成する。			
医療技術名	小児癌および悪性骨軟部腫瘍のイホスファミド脳症に対するメチレンブルー治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 メチレンブルーはイホスファミド脳症に対する治療目的で使用され、その有効性が報告されている。しかしながら、メチレンブルーはメトヘモグロビン血症治療剤であり、イホスファミド脳症に対する保険適応は認められていない。このため、標準治療では治療が難しく、現在の保険適応範囲で使用可能な薬剤がない状態である。メチレンブルー(静注50mg)1Aを生食100mlに溶解し1時間で点滴静注。発症時から完全に回復するまで4時間毎に投与する予定である。			
医療技術名	腎移植領域におけるリツキシマブの応用	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 1) ABO不適合腎移植における脾摘出回避希望例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 3) 既存抗体陽性腎移植症例 4) 抗体関連拒絶反応発症症例 1) 2) 3) の場合、移植2週間前と移植当日にリツキシマブ150mg/m <sup>2</sup> を点滴静注 4) 抗体関連拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にて改善しない症例に対し、リツキシマブ150mg/m <sup>2</sup> を単回投与する			
医療技術名	腎移植領域における5回以上のplasmapheresis	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 1) ABO血液型不適合腎移植における脾摘出回避希望症例 3) 既存抗体陽性腎移植症例 4) 抗体関連拒絶反応発症症例 腎移植領域において脱感作目的でのplasmapheresisは術前4回保険適応で認められている。しかしながら既存抗体陽性症例、ABO不適合腎移植血液型抗体価高値症では4回のplasmapheresisでは手術可能な状態とならないことがある。そのため、手術可能な状態となるまで更にplasmapheresisが4-6回必要となることがある。また抗体関連拒絶反応を発症した場合、効果が出るまでplasmapheresisを繰り返す必要がある。			
医療技術名	腎移植領域における免疫グロブリン大量投与療法の応用	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 1) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 2) 既存抗体陽性腎移植症例 3) 抗体関連拒絶反応発症症例 1) 2) の場合、移植前に0.1~0.5g/kgを点滴静注 5日間投与 3) 抗体関連拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にて改善しない症例に対して0.5g/kgを5日間投与する			
医療技術名	ロボット支援 腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 画像診断によりcT1,cN0,cM0 ステージの腎がんと判定された患者を対象にda Vinci サージカルシステムを用いたロボット補助下腹腔鏡下部分切除術を行う。施行するにあたっては、日本泌尿器内視鏡学会のガイドラインに従って行う。			
医療技術名	ロボット支援 腹腔鏡下ドナー腎採取術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 画像診断によりcT1,cN0,cM0 ステージの腎がんと判定された患者を対象にda Vinci サージカルシステムを用いたロボット補助下腹腔鏡下部分切除術を行う。施行するにあたっては、日本泌尿器内視鏡学会のガイドラインに従って行う。			

医療技術名	アバステン硝子体内注射	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、ぶどう膜炎、新生血管黄斑症、網膜血管拡張症、網膜血管腫、網膜血管炎、新生血管緑内障の患者に対して手術室にて眼瞼および結膜嚢を消毒後、顕微鏡下にてアバステン0.05mlを30G針にて、硝子体内に注射する。アバステン点滴静注用(4ml)を0.2ml毎に分注して使用する。アバステン点滴静注用4mlから約20本、硝子体内用の注射液を作成することができる。			
医療技術名	組織プラスミノゲンアクチベータ(t-PA)網膜下注射	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、新生血管黄斑症、網膜細動脈瘤の患者に対して手術室にて硝子体手術時に網膜下へt-PAを注入し、網膜下出血を洗浄する。			
医療技術名	毎状血管腫に対するプロプラノロール内服による治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 標準治療では治癒が難しく、現在の保険適応の範囲で使用可能な薬剤では効果が認められない毎状血管腫瘍の患者を対象とする。入院当日は0.5mg/kg/day分3より開始し、問題なければ、1mg/kg/day、2mg/kg/day分3と増量し、問題なければ血管腫が自然に退縮する1歳以降で漸減中止する。副作用を認めた際には、可能であれば減量して継続投与する。入院期間中は24時間心拍、SpO2モニターを装着し、毎回内服前に血圧・脈拍・血統測定を行う。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の生着不全予防および急性GVHD予防、治療としてのミコフェノール酸モフェチルの有効性(OCU haplo)	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 腎移植後の難治性拒絶反応のある患者を対象とする。患者体重に合わせて容量を決定し、経口投与する。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の生着不全予防および急性GVHD予防、治療としてのミコフェノール酸モフェチルの有効性(OCU16-2)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 腎移植後の難治性拒絶反応のある患者を対象とする。患者体重に合わせて容量を決定し、経口投与する。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の生着不全予防および急性GVHD予防、治療としてのミコフェノール酸モフェチルの有効性(選択症例haplo)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 腎移植後の難治性拒絶反応のある患者を対象とする。患者体重に合わせて容量を決定し、経口投与する。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の生着不全予防および急性GVHD予防としてのミコフェノール酸モフェチルの有効性(nonTBI CBT)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 腎移植後の難治性拒絶反応のある患者を対象とする。患者体重に合わせて容量を決定し、経口投与する。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の生着不全予防および急性GVHD予防としてのミコフェノール酸モフェチルの有効性(選択症例)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 患者体重に合わせて容量を決定し、経口投与する。			
医療技術名	治療抵抗性慢性GVHDに対するリツキシマブ治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 CD20陽性のB細胞非ホジキンリンパ腫の患者を対象とする。治療適応となる中等症以上で、ステロイドによる初期治療抵抗性の慢性GVHDに対してリツキシマブを点滴投与する。			
医療技術名	本邦におけるHLA不一致骨髄バンクドナーからの同種造血幹細胞移植後におけるBortezomibを用いたGVHD予防法の安全性の検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 GVHDのハイリスクとなるHLA不一致骨髄バンクドナーからの同種造血幹細胞移植に際して、タクロリムス+メソトレキセートの標準的GVHD予防療法に加えて、bortezomibを移植後計3回点滴投与する。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の治療抵抗性Idopathic pneumonia syndrome (IPS)に対するエタネルセプト治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 関節リウマチの患者を対象とする。同種造血幹細胞移植後の重篤なIPSに対し、ステロイド全身投与で改善しない場合に施行する。			
医療技術名	治療抵抗性特発性血小板減少性紫斑病に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 CD20陽性のB細胞性非ホジキンリンパ腫の患者を対象とする。抗血小板抗体が存在する治療抵抗性の血小板減少症に対して点滴投与する。			
医療技術名	治療抵抗性血栓性血小板減少性紫斑病に対するリツキシマブ治療B9	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 CD20陽性のB細胞性非ホジキンリンパ腫の患者を対象とする。血漿交換や血漿輸血などの治療に抵抗性の血栓性血小板減少性紫斑病に対して点滴投与する。			
医療技術名	HLA半合致移植における移植後シクロフォスファミドによるGVHD予防療法(OCU haplo)	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 GVHDのハイリスクとなるHLA半合致ドナーからの同種造血幹細胞移植に際して、タクロリムス+MMFの標準的GVHD予防療法に加えて、シクロフォスファミドを移植後点滴投与する。			

医療技術名	HLA半合致移植における移植後シクロフォスファミドによるGVHD予防療法(OCU16-2)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 悪性リンパ腫、急性白血病の患者を対象とする。GVHDのハイリスクとなるHLA半合致ドナーからの同種造血幹細胞移植に際して、タクロリムス+MMFの標準的GVHD予防療法に加えて、シクロフォスファミドを移植後点滴投与する。			
医療技術名	HLA半合致移植における移植後シクロフォスファミドによるGVHD予防療法(選択症例 haplo)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 GVHDのハイリスクとなるHLA半合致ドナーからの同種造血幹細胞移植に際して、タクロリムス+MMFの標準的GVHD予防療法に加えて、シクロフォスファミドを移植後点滴投与する。			
医療技術名	骨髓系血液悪性腫瘍に対するG-CSF併用造血幹細胞移植前処置治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 骨髓系血液悪性腫瘍に対して造血幹細胞移植前処置としてのシトラピンにGCSFを併用する。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植におけるSTR-PCR法によるキメリズム解析	取扱患者数	58人
当該医療技術の概要 移植前および移植後に末梢血または骨髓液を採取しキメリズム解析を行う。ドナーおよびレシピエントの検体を用いて移植前、移植後30、60、90日目に(完全ドナー未達成の場合は180、360日目)検体を採取し検査を行う。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後のハイリスク症例に対するEBウイルスDNA定量検査	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植後のハイリスク症例に対して血液、体液、組織検体などでEBウイルスDNA定量検査を行う			
医療技術名	真性多血症におけるJAK2遺伝子V617変異解析	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 真性多血症の診断およびリスク因子の判定のため、末梢血にてJAK2遺伝子V617変異解析を行う			
医療技術名	治療抵抗性慢性骨髄性白血病におけるBCR-ABL変異解析	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 治療抵抗性慢性骨髄性白血病において末梢血または骨髓液にてBCR-ABL変異解析を行う			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の拒絶反応予防のためのペントスタチン併用ドナーリンパ球輸注(DLI)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植後のT細胞キメリズムの低下から移植後骨髄不全を来し、移植片拒絶の可能性が高いと考えられる症例に対し、一般的な治療で十分な効果が得られず、血球減少が持続・遷延する場合に施行する。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後難治性急性移植片対宿主病(GVHD)に対するステロイド動脈注入療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 移植後難治性GVHDに対して、GVHD発症臓器(腸管または肝臓)の支配血管を同定するために血管造影を行い、その血管を選択した後、カテーテル先端よりステロイドを注入する。			
医療技術名	難治性急性肝移植片対宿主病(GVHD)に対するシクロフォスファミド療法(選択症例)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植後のステロイド抵抗性急性肝GVHDに対して、シクロフォスファミドを点滴投与する。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の出血性膀胱炎に対するアデノウイルスBKウイルスDNA検査	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植後の出血性膀胱炎に対して、血液、体液、組織検体などでアデノウイルス・BKウイルスDNA検査を行う。			
医療技術名	HLA一致血縁又は骨髓バンクドナーからの同種造血幹細胞移植における移植後大量シクロフォスファミドを用いたGVHD予防法(OCU16-1)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植の適応となる造血器疾患の患者を対象とする。HLA一致血縁または骨髓バンクドナーからの同種造血幹細胞移植に際して、GVHD予防としてタクロリムスに加えて、シクロフォスファミド50mg/kgを移植後day3、4に点滴投与する。			
医療技術名	造血幹細胞移植後EBV血症に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 造血幹細胞移植を受け、末梢単核球中1000コピー/μgDNA以上のEBウイルスが検出されている患者を対象とする。造血幹細胞移植後に抹消血EBウイルスDNA定量検査にてEBウイルスの増加を認める症例に対して、リツキシマブ375mg/m <sup>2</sup> を点滴投与する。			
医療技術名	HLA半合致移植後のミコフェノール酸モフェチルを用いた生着不全予防およびGVHD予防、治療(選択症例)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植後にミコフェノール酸モフェチルを、患者体重に合わせて容量を決定し、経口投与する。			
医療技術名	生着不全に対する移植後大量シクロフォスファミドを用いたHLA半合致移植(選択症例)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 白血病、悪性リンパ腫の患者を対象とする。生着不全に対するHLA半合致ドナーからの同種造血幹細胞移植に際して、GVHD予防としてシクロフォスファミド25~50mg/kgを移植後day3、4に点滴投与する。			

医療技術名	進行性多巣性白質脳症に対する塩酸メフロキン治療(選択症例)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 JCウイルスによる進行性多巣性白質脳症(PML)と診断された患者に対し、塩酸メフロキン(メファキン275mg/錠)1錠を初回3日間投与後に1週間おき6ヶ月投与する。			
医療技術名	ブドウ糖PETによる認知症診断	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 肘静脈よりFDGスキャン注を静脈投与し、その後PETカメラにて頭部撮影。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。





## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	63
2	筋萎縮性側索硬化症	25	57	特発性拡張型心筋症	34
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	31
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	5	60	再生不良性貧血	72
6	パーキンソン病	168	61	自己免疫性溶血性貧血	9
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	148
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	0
11	重症筋無力症	56	66	IgA腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	2
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	57	68	黄色靭帯骨化症	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	19	69	後縦靭帯骨化症	19
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クローウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	2
17	多系統萎縮症	15	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	38	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	7
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	19	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	24
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	2
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	0	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	77
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	16
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	7
32	自己食食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	4
34	神経線維腫症	14	89	リンパ管筋腫症	2
35	天疱瘡	3	90	網膜色素変性症	2
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	10
37	膿疱性乾癬(汎発型)	0	92	特発性門脈圧亢進症	6
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	145
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	20
40	高安動脈炎	1	95	自己免疫性肝炎	108
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	317
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	612
43	顕微鏡的多発血管炎	9	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	1	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	10	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	9	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFO症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	229	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	55	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	9	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	52	107	全身型若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	86	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	13	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	0

## 4 指定難病についての診療

111	先天性ミオパチー	5	161	家族性良性慢性天疱瘡	3
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	3
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	50	167	マルファン症候群	9
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オキシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリテン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジドリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー 症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	5	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	1
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	2
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	1	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	6	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	2

## 4 指定難病についての診療

211	左心低形成症候群	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	4	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	9	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	4	266	家族性地中海熱	3
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	11	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	29
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	7
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	4	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	5	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	26	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	14	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	3
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	2
244	メーブルシロップ尿症	5	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	9	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	7	294	先天性横隔膜ヘルニア	2
247	イソ吉草酸血症	1	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	8
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	2
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	25

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファテジリノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	2
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	5	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
高度難聴指導管理料	網膜再建術
糖尿病合併症管理料	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
がん性疼痛緩和指導管理料	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
がん患者指導管理料1・2・3	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。) 医科・歯科
外来緩和ケア管理料	下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。) 医科・歯科
移植後患者指導管理料(臓器移植後・造血幹細胞移植後)	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
糖尿病透析予防指導管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
外来放射線照射診療料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
ニコチン依存症管理料	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
がん治療連携計画策定料	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
肝炎インターフェロン治療計画料	経カテーテル大動脈弁置換術
薬剤管理指導料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
地域連携診療計画加算(診療情報提供料(I)注14)	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
医療機器安全管理料1・2・歯科	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術・両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
遺伝学的検査	補助人工心臓
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
検体検査管理加算(I)・(IV)	腹腔鏡下小切開腎部分切除術
国際標準検査管理加算	腹腔鏡下小切開腎摘出術
遺伝カウンセリング加算	腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
胎児心エコー法	胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	腹腔鏡下肝切除術
ヘッドアップティルト試験	生体部分肝移植術
人工脾臓検査、人工脾臓療法	腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
長期継続頭蓋内脳波検査	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術

脳磁図	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
神経学的検査	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
補聴器適合検査	同種死体腎移植術
小児食物アレルギー負荷検査	生体腎移植術
内服・点滴誘発試験	膀胱水圧拡張術
画像診断管理加算1	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
ポジトロン断層撮影	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	人工尿道括約筋植込・置換術
CT撮影及びMRI撮影	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
冠動脈CT撮影加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
心臓MRI撮影加算	腹腔鏡下仙骨隆固定術
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
外来化学療法加算1	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
無菌製剤処理科	内視鏡胎盤的胎盤吻合血管レーザー焼灼術
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	輸血管理料Ⅰ
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	貯血式自己血輸血管理体制加算
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	歯周組織再生誘導手術
がん患者リハビリテーション料	麻酔管理料Ⅰ・Ⅱ
歯科口腔リハビリテーション料2	放射線治療専任加算
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	外来放射線治療加算
医療保護入院等診療料	高エネルギー放射線治療
エタノールの局所注入(副甲状腺)	1回線量増加加算
透析液水質確保加算2	強度変調放射線治療(IMRT)
CAD/CAM冠	定位放射線治療
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	保険医療機関間の連携による病理診断
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	病理診断管理加算2
腫瘍脊椎骨全摘術	口腔病理診断管理加算2
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	クラウン・ブリッジ維持管理料
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	





(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週1回程度
剖検の状況	剖検症例数 40例 / 剖検率 12.7%



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
関西十二大学で模擬患者養成を標準化することは人的交流を可能にする	栩野 吉弘	総合診療センター	2,080,000	補	基盤研究(C)
機能から形態異常への進展でのmicroRNAの関与と機序:喫煙の動脈硬化での検討	竹本 恭彦	総合診療センター	1,300,000	補	基盤研究(C)
「急性心筋梗塞に対するヒトIL-11製剤を用いた心筋保護治療の安全性・有効性に関する臨床試験」に関する研究	葭山 稔	循環器内科	6,975,586	補	AMED
OCT及びMRIを用いての急性冠症候群(ACS)におけるエクソソームの関与の検討	葭山 稔	循環器内科	1,300,000	補	基盤研究(C)
冠動脈MRIによる心血管イベント、およびPCI中のno-reflowの予知・予防	江原 省一	循環器内科	780,000	補	基盤研究(C)
慢性心不全の新しい治療法~四肢駆血による非薬物療法~	島田 健永	循環器内科	1,040,000	補	基盤研究(C)
単極記録型ホルター加算平均心電図の開発とJ波症候群における有用性の検討	高木 雅彦	循環器内科	3,120,000	補	基盤研究(C)
気道組織の老化反応から見た難治性喘息の病態解明と新規治療戦略の確立	金澤 博	呼吸器内科	1,560,000	補	基盤研究(C)
COPD治療における新規治療標的としてのPI3K-PTEN不均衡の検討	浅井 一久	呼吸器内科	1,560,000	補	基盤研究(C)
イメージングと新規バイオマーカーを用いた慢性疲労症候群の客観的診断法の開発	稲葉 雅章	内分泌・骨・リウマチ内科	500,000	補	AMED
慢性疲労症候群に対する治療法の開発と治療ガイドラインの作成	稲葉 雅章	内分泌・骨・リウマチ内科	500,000	補	AMED
ポジトロンCTで脳内炎症が確認された患者に対するミクログリア活性化抑制薬の有効性検証	稲葉 雅章	内分泌・骨・リウマチ内科	260,000	補	AMED
病的副甲状腺のメガリン発現抑制機序の解明-VDR、CaRによる調節機構の検討	稲葉 雅章	内分泌・骨・リウマチ内科	1,690,000	補	基盤研究(C)

Fetuin-A/ CPPによるPEW・MIA症候群の成立機序の解明	森 克仁	腎臓内科	1,560,000	補	基盤研究(C)
Hypマウス骨組織でのFGF-23分泌亢進機構ーX連鎖性疾患組織解析法での検討ー	今西 康雄	内分泌・骨・リウマチ内科	1,820,000	補	基盤研究(C)
末梢血破骨前駆細胞を介した糖尿病の骨脆弱化機序の解明	元山 宏華	生活習慣病・糖尿病センター	780,000	補	基盤研究(C)
ポリグルコール酸(PGA)シートとフィブリン糊を用いた消化管穿孔に対する有用性試験	永見 康明	消化器内科	962,800	補	大阪コミュニティ財団がん研究助成
インフラマソームからみたバレット食道の発生ならびに発癌機序の解明と予防法の確立	渡邊 俊雄	消化器内科	1,820,000	補	基盤研究(C)
母子分離ストレスモデルでの腸管グリア細胞応答と消化管機能変調の分子生物学的解析	渡邊 俊雄	消化器内科	0	補	基盤研究(C)
腸管小胞体ストレスに対する免疫応答と腸炎発症メカニズム解明	細見 周平	消化器内科	1,560,000	補	若手研究(B)
プロスタグランジントランスポーターをターゲットとした潰瘍性大腸炎の発癌リスク診断	大谷 恒史	消化器内科	2,210,000	補	若手研究(B)
メタゲノム解析によるバレット食道発癌過程におけるマイクロバイオータの関与	藤原 靖弘	消化器内科	1,170,000	補	基盤研究(C)
母子分離ストレスモデルでの腸管グリア細胞応答と消化管機能変調の分子生物学的解析	藤原 靖弘	消化器内科	0	補	基盤研究(C)
母子分離ストレスモデルでの腸管グリア細胞応答と消化管機能変調の分子生物学的解析	谷川 徹也	消化器内科	0	補	基盤研究(C)
肝星細胞脱活性化剤開発による肝硬変の肝機能改善と肝発がん予防	河田 則文	肝胆膵内科	26,000,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
星細胞におけるサイトロビン発現調節技術の確立による脱線維化治療法開発	河田 則文	肝胆膵内科	8,970,000	補	基盤研究(B)
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	榎本 大	肝胆膵内科	1,100,000	補	厚生労働省
Drug freeからHBs抗原消失を目指すB型肝炎抗ウイルス療法とこの効果を予測する新規因子の検討	榎本 大	肝胆膵内科	1,040,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)

SVR症例におけるマイクロRNAを用いた肝発がんリスクマーカーの開発	榎本 大	肝胆膵内科	1,560,000	補	基盤研究(C)
難治性疾患に対するmiRNA補充療法の開発	村上 善基	肝胆膵内科	0	補	基盤研究(B)
iNKT細胞による非アルコール性脂肪性肝炎の免疫治療法の開発	村上 善基	肝胆膵内科	0	補	基盤研究(C)
C型肝炎ウイルス排除後の肝病態に関与する因子の探索	田守 昭博	肝胆膵内科	1,430,000	補	基盤研究(C)
胆汁酸の機能解析を基軸とした肝線維化抑制に関連する新規標的因子の探求	寺西 優雅	肝胆膵内科	1,560,000	補	若手研究(B)
若年胆管細胞癌の遺伝的な発症リスクの検証	川村 悦史	肝胆膵内科	1,820,000	補	基盤研究(C)
肝発癌例での次世代シーケンサーを用いたHBV遺伝子変異と宿主遺伝子多型の解析	小塚 立蔵	肝胆膵内科	1,950,000	補	若手研究(B)
低酸素性虚血性脳症に対する自己臍帯血幹細胞治療に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	46,164,000	委	AMED
脳性麻痺に対する臍帯由来間葉系細胞治療に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	13,000,000	委	AMED
ムコ多糖症Ⅱ型脳室内酵素補充療法医師主導治験	新宅 治夫	小児科・新生児科	1,300,000	委	AMED
重症児の在宅支援を担う医師等養成	新宅 治夫	小児科・新生児科	6,200,000	補	文部科学省 高等教育局
保健機関が実施するぜん息事業と教育・保育機関との連携によるぜん息の発症・増悪の予防、改善のための新しいシステムの構築に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	3,850,000	委	環境再生 保全機構
新しい新生児代謝スクリーニング時代に適応した先天代謝異常症の診断基準作成と治療ガイドラインの作成および新たな薬剤開発に向けた調査研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	800,000	補	厚生労働省
ライソゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究	濱崎 考史	小児科・新生児科	500,000	補	厚生労働省

診療の質を高める研究 新生児タンデムマススク リーニング対象疾患の診 療ガイドライン改訂、診療 の質を高めるための研究	濱崎 考史	小児科・新生児科	1,300,000	委	AMED
ムコ多糖症Ⅲ型の自閉傾 向・知的退行と脳内慢性 炎症の関与についての研 究	瀬戸 俊之	小児科・新生児科	1,580,000	補	文部科学 省
新生児・乳児に特化した 舌下粘膜ワクチンアジュバ ントの開発と分子基盤の解 明	徳原 大介	小児科・新生児科	1,690,000	補	基盤研究 (C)
新生児の自然免疫応答の 解明を基盤としたRSウイル ス経鼻ワクチンの開発	徳原 大介	小児科・新生児科	0	補	挑戦的萌 芽研究
ムコ多糖症Ⅲ型の自閉傾 向・知的退行と脳内慢性 炎症の関与についての研 究	齊藤 三佳	小児科・新生児科	780,000	補	基盤研究 (C)
総合病院における診療体 制と連携の明確化	井上 幸紀	神経精神科	720,000	補	厚生労働 科学研究 費補助金
労働者の職業性ストレスと 食行動に関する研究	山内 常生	神経精神科	0	補	若手研究 (B)
就労者における双極性障 害の早期診断、事例性に 関する研究	出口 裕彦	神経精神科	0	補	若手研究 (B)
自殺予防に資するメタボ ローム解析による双極性 障害の病相交代予測バイ オマーカー探索	出口 裕彦	神経精神科	650,000	補	若手研究 (B)
皮膚の遺伝関連性希少難 治性疾患群の網羅的研究	鶴田 大輔	皮膚科	600,000	補	厚生労働 科学研究 費補助金
ストレスが皮膚アレルギー 性疾患を悪化させる病態 に関して	鶴田 大輔	皮膚科	2,700,000	補	小林国際 奨学財団
水疱性類天疱瘡における 水疱維持・治癒機構に関 する動的解明研究	鶴田 大輔	皮膚科	1,430,000	補	基盤研究 (C)
多剤耐性菌皮膚潰瘍に対 する5-ALA全身投与によ るPDT研究	小澤 俊幸	皮膚科	1,040,000	補	基盤研究 (C)
白皮症の治療ーケミカル シャペロン効果の基礎研 究	深井 和吉	皮膚科	2,860,000	補	基盤研究 (C)
原発性瘢痕性脱毛症にお ける上皮間葉転換の関与 の解析	今西 久幹	皮膚科	1,430,000	補	研究活動ス タート支援
若手研究者への研究費助 成	城後 篤志	放射線科	300,000	補	大阪市立 大学

位相差強調画像法による脳内髄鞘イメージの解剖学的標準化とてんかん原性焦点の同定	坂本 真一	放射線科	2,080,000	補	基盤研究(C)
高磁場MRIを用いた位相差強調画像法による脳腫瘍内微細構造の分離画像化	坂本 真一	放射線科	0	補	基盤研究(C)
肝悪性腫瘍に対するバルーン閉塞下温熱動注療法の開発	山本 晃	放射線科	2,080,000	補	基盤研究(C)
肺腫瘍に対するラジオ波凝固療法と抗癌剤(プラチナ製剤)局所投与併用の有効性の検証	濱本 晋一	放射線科	1,820,000	補	基盤研究(C)
高齢認知症患者における高齢者タウオパチーの臨床的分離同定に関する研究	嶋田 裕之	放射線科	1,040,000	補	基盤研究(C)
高磁場MR装置を用いた、拡散強調画像による自己免疫性脱髄疾患患者の脳温度解析研究	三木 幸雄	放射線科	0	補	基盤研究(C)
脳定位放射線照射における神経損傷の拡散テンソル画像による解析	細野 雅子	放射線治療科	520,000	補	基盤研究(C)
組織構造を考慮した3次元的なCTVマージンのシミュレーションとその評価	堤 真一	放射線治療科	390,000	補	若手研究(B)
ヒト胃癌細胞株の増殖能の解析	八代 正和	消化器外科	1,000,000	補	第一三共株式会社
バイオ3Dプリンターを用いた胃癌浸潤・増殖モデルの作製	八代 正和	消化器外科	500,000	補	株式会社サイフューズ
胃癌患者におけるリキッドバイオ体外診断システムの開発	八代 正和	消化器外科	11,850,000	補	第一三共株式会社
A knock-down of the OCUM-2M gastric cancer cell line	八代 正和	消化器外科	1,800,000	委	Five Prime Therapeutics, Inc.,
胃癌組織内リンパ管内皮細胞の性質変化と癌進展との関係	田中 浩明	消化器外科	100,000	補	日本消化器癌発生学会理事長直轄プロジェクト
胃癌リンパ節内の免疫寛容とリンパ管内皮細胞との相関及び転移予測マーカーの同定	田中 浩明	消化器外科	1,430,000	補	基盤研究(C)

乳癌の薬物療法耐性への低酸素の関与についての研究	野田 諭	消化器外科	2,080,000	補	若手研究(B)
トリプルネガティブ乳癌におけるEカドヘリン発現の分子機構の解明および臨床的意義	柏木 伸一郎	乳腺・内分泌外科	1,040,000	補	基盤研究(C)
甲状腺未分化癌と上皮間葉転換の関連に関する研究	小野田 尚佳	乳腺・内分泌外科	0	補	基盤研究(C)
職業性胆管癌に対する総合的診断法の確立	久保 正二	肝胆膵外科	15,840,000	補	厚生労働省
生体肝移植ドナーの妊娠・出産の体験と医療支援に関する研究	久保 正二	肝胆膵外科	0	補	基盤研究(C)
臨床病理学および分子生物学的検討による肝内胆管癌化学発癌メカニズムの解明	久保 正二	肝胆膵外科	1,170,000	補	基盤研究(C)
胆汁分泌小胞中miRNAの解析による胆管癌の早期診断マーカーの開発	竹村 茂一	肝胆膵外科	1,430,000	補	文部科学省
超低磁場MRIの開発と分子イメージング技術を用いた頭蓋内疾患への応用基礎研究	宇田 武弘	脳神経外科学	0	補	基盤研究(C)
予後不良因子を有する骨粗鬆症性新鮮椎体骨折への効果的で効率的な低侵襲外科的治療法の確立-多施設前向き介入研究-	中村 博亮	整形外科	25,070,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
日本医療研究開発機構長寿・障害総合研究事業長寿科学研究開発事業骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存的初期治療の指針策定	中村 博亮 (分担金)	整形外科	1,170,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
iPS細胞技術と内因性シュワン細胞誘導DDS技術を融合したハイブリッド型人工神経	中村 博亮	整形外科	1,690,000	補	基盤研究(C)
関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復-多施設共同、非盲検、ランダム化、平行比較試験	橋本 祐介 (分担金)	整形外科	200,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
変形性膝関節症の早期診断とロコモ体操における軟骨マーカー変化の検討	橋本 祐介	整形外科	838,200	補	公益財団法人長寿科学振興財団
自己単核球を含む多血小板血漿ゲルを用いた半月板再生方法の開発	橋本 祐介	整形外科	1,040,000	補	基盤研究(C)

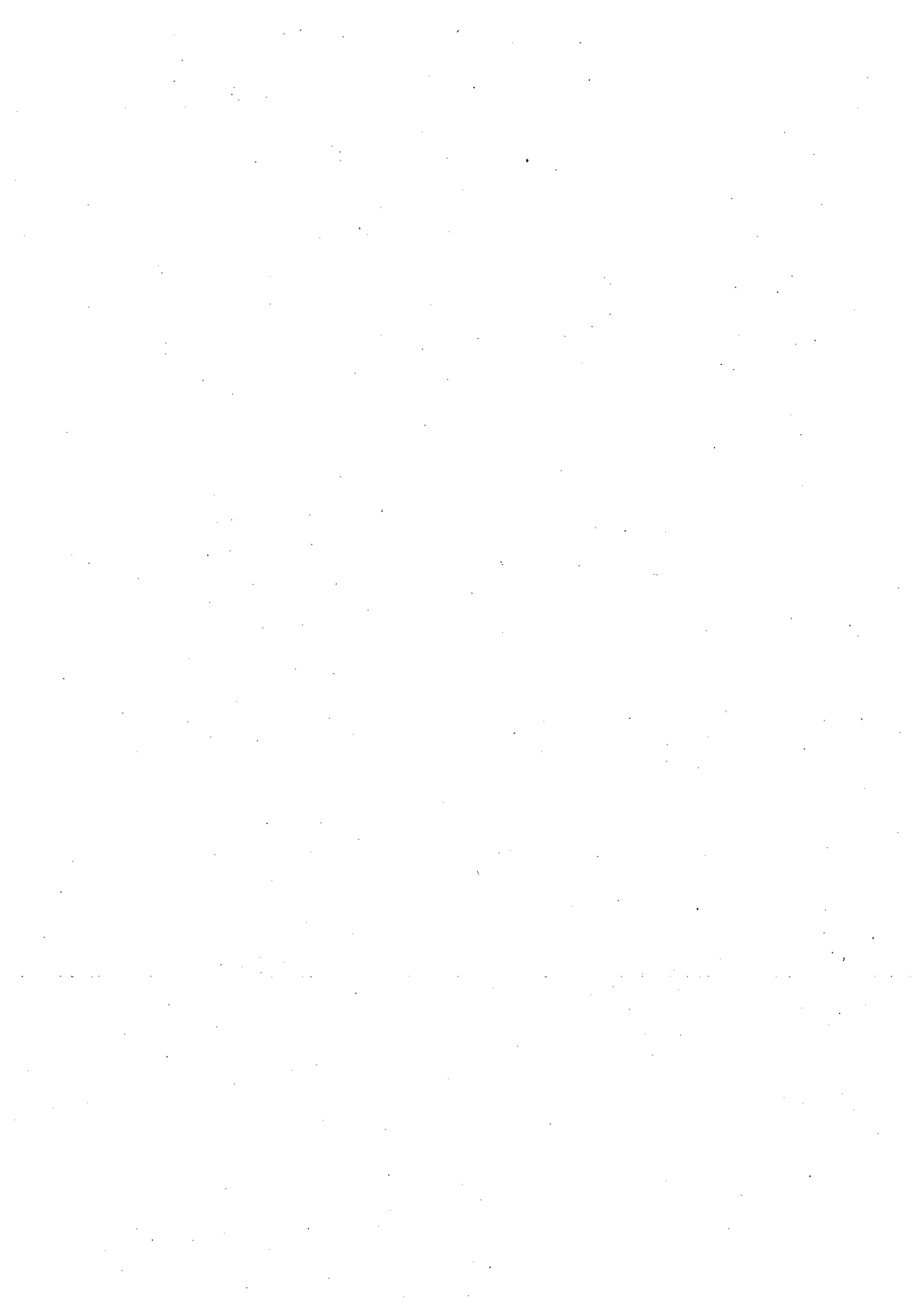


SDF-1/CXCR4 システムを介した半月板修復機能の解明と臨床応用技術開発	箕田 行秀	整形外科	1,820,000	補	基盤研究(C)
臨床応用へ向けたヒトiPS細胞移植と人工神経による末梢神経再生治療法の確立	上村 卓也	整形外科	1,690,000	補	基盤研究(C)
関節リウマチにおける滑膜内血流分布と関節破壊の関連性の解明	岡野 匡志	整形外科	650,000	補	若手研究(B)
iPS細胞注射による低侵襲脊椎固定術の開発	鈴木 亨暢	整形外科	1,430,000	補	基盤研究(C)
赤外蛍光造影を用いた末梢神経絞扼性障害における神経内血流の可視化と臨床応用	岡田 充弘	整形外科	650,000	補	基盤研究(C)
関節リウマチ患者の早期運動療法における伸展トルクの適正化と新スプリントの開発研究	岡田 充弘	整形外科	0	補	基盤研究(C)
性ホルモン制御によるデュプロイトラン拘縮の新規治療	家口 尚	整形外科	1,690,000	補	基盤研究(C)
変性関節軟骨における粘性係数分布のマイクロ断層可視化法(多機能OCT)の開発	池淵 充彦	整形外科	0	補	基盤研究(C)
ピカルタミドを用いたCAB療法後の去勢抵抗性前立腺癌に対する抗アンドロゲン剤交替療法と早期エンザルタミド導入療法の多施設前向き無作為化比較試験	井口 太郎	泌尿器科	5,000,000	委	アステラス製薬株式会社
ARスプライズバリエントを標的とした去勢抵抗性前立腺癌に対する治療法の探索	加藤 実	泌尿器科	1,430,000	補	若手研究(B)
脂肪乳剤を用いた全身麻酔からの覚醒促進および認知機能回復促進	森 隆	麻酔科・ペインクリニック科	2,340,000	補	基盤研究(C)
神経障害性疼痛モデルラットにおける下降性抑制系賦活機構の検討	西川 精宣	麻酔科・ペインクリニック科	0	補	基盤研究(C)
糖尿病性神経障害における脊髄刺激療法による脊髄モノアミン動態の検討	舟尾 友晴	麻酔科・ペインクリニック科	1,560,000	補	基盤研究(C)
術後回復を促進し合併症軽減を可能にする新しい周術期抗酸化ストレス治療戦略の確立	土屋 正彦	麻酔科・ペインクリニック科	1,560,000	補	基盤研究(C)

三環系抗うつ薬中毒に対する脂肪乳剤の有効性ーアルカリ化療法との比較検討	松浦 正	麻酔科・ペインクリニック科	1,690,000	補	基盤研究(C)
全身麻酔でのオピオイド誘発性痛覚過敏の機序と予防についての電気生理学的検討	舟井 優介	麻酔科・ペインクリニック科	1,430,000	補	若手研究(B)
脊髄虚血における脊髄前角グルタミン酸濃度の測定ー脊髄虚血機序の解明	末廣 浩一	麻酔科・ペインクリニック科	1,170,000	補	若手研究(B)
皮膚線維芽細胞と悪性黒色腫細胞との相互作用の検討	元村 尚嗣	形成外科	1,300,000	補	基盤研究(C)
骨髄バンクコーディネーター期間の短縮とドナープールの質向上による造血幹細胞移植の最適な機会提供に関する研究	日野 雅之 (研究分担者)	血液内科	300,000	補	厚生労働省
成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立およびゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究	中前 博久 (分担研究者)	血液内科	650,000	委	日本医療研究開発機構研究費(革新的がん医療実用化研究事業)
認知症早期/発症前におけるタウイメージングの有用性の検証	伊藤 義彰	神経内科	3,634,616	委	独立行政法人放射線医学研究所
脳塞栓症急性期治療における新規経口抗凝固薬の有用性と安全性	伊藤 義彰	神経内科	1,170,000	補	基盤研究(C)
Keap1/Nrf2システムの制御による新たな脳梗塞治療法の開発	安部 貴人	神経内科	1,430,000	補	基盤研究(C)
増加する救急患者に対する地域での取り組みに関する研究	溝端 康光	救命救急センター	0	補	厚生労働科研
災害医療のメディカルディレクター養成	溝端 康光	救命救急センター	4,000,000	補	文部科学省課題解決型高度医療人材養成PG
要求後者・救急隊・医療機関でシームレスな多言語緊急度判断支援ツールの開発普及研究	溝端 康光	救命救急センター	0	補	厚生労働科研
救急領域におけるノンテクニカルスキル教育コース(NoTAM)についての研究	溝端 康光	救命救急センター	2,080,000	補	基盤研究(C)
南海トラフ地震発生に備えた医療体制構築と発生時における医療対応拠点づくり	山本 啓雅	救命救急センター	1,300,000	補	厚生労働科研

南海トラフ地震発生に備えた医療体制構築と発生時における医療対応拠点づくり	山本 啓雅	救命救急センター	1,300,000	補	基盤研究(C)
地域変容に対応した避難行動要支援者のための地区共助計画システムの構築に関する研究	山本 啓雅	救命救急センター	0	補	基盤研究(B)
大阪・デリー救急医療人材育成プロジェクト	西村 哲郎	救命救急センター	3,918,400	補	国立国際医療研究センター
口腔癌に対するウイルス療法の開発ー免疫チェックポイント阻害薬との併用療法ー	中原 寛和	歯科・口腔外科	1,690,000	補	基盤研究(C)

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yoshihiro Tochino, Kazuhisa Asai, Taichi Shuto et al	総合診療センター/総合医学 教育学	Asthma-COPD overlap syndrome—Coexistence of chronic obstructive pulmonary disease	Journal of General and Family Medicine 2017 Mar; 18: 5-11	Original Article
2	Hikomitsu Toyoda, Hidetomi Terai, Kentaro Yamada et al	総合診療センター/総合医学 教育学	Prevalence of Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis in Patients with Spinal Disorders	Asian Spine J. 2017 Feb; 11: 63-70	Original Article
3	Akihisa Hanatani	循環器内科	Administration of tolvaptan with reduction of loop diuretics ameliorates congestion with improving renal dysfunction in patients with congestive heart failure and renal dysfunction.	Heart Vessels. 2017;32:287-294	Original Article
4	Naoki Norioka	循環器内科	Low-flow mediated constriction incorporated indices as indicators of cardiovascular risk in smokers.	Atherosclerosis. 2016;251:132-138	Original Article
5	Atsushi Doi	循環器内科	Long RP' Tachycardia With Unusual Entrainment Responses: What Is the Mechanism?	J Cardiovasc Electrophysiol.2016;27:12 42-1244	Case report
6	Naoki Norioka	循環器内科	Higher visit-to-visit intra-dialytic blood pressure is associated with the progression of aortic valve stenosis in chronic hemodialysis patients.	Heart Vessels. 2016;31:1491-1496	Original Article
7	Asai K, Hirata K, Hashimoto S, et al	呼吸器内科学	Efficacy and safety of indacaterol/glycopyrronium in Japanese patients with COPD: Pooled analysis of SHINE and ARISE.	Respir Investig. 2016 Nov; 54(6): 428-35	Original Article
8	Kimura T, Sowa-Osako J, Nakai T, et al	呼吸器内科学	Alectinib-Induced Erythema Multiforme and Successful Rechallenge with Alectinib in a Patient with Anaplastic Lymphoma Kinase-Rearranged Lung Cancer.	Case Rep Oncol. 2016 Dec; 9(3): 826-32	Original Article
9	Kurajoh M, Kadoya M, Morimoto A, et al.	代謝内分泌病態内科学	Plasma leptin concentration is associated with fatigue severity in patients with cardiovascular risk factors - HSCAA study.	Psychoneuroendocrinology ; 74:7-12, 2016 Dec	Original Article
10	Mori K, Emoto M, Shoji T, et al.	代謝内分泌病態内科学	Linagliptin monotherapy compared with voglibose monotherapy in patients with type 2 diabetes undergoing hemodialysis: a 12-week randomized trial.	BMJ Open Diabetes Res Care; 4(1):e000265, 2016 Jul (オンライン)	Original Article
11	Imanishi Y, Fukuma S, Karaboyas A, et al.	代謝内分泌病態内科学	Associations of employment status and educational levels with mortality and hospitalization in the dialysis outcomes and practice patterns study in Japan.	PLoS One; 12(3):e0170731, 2017 Mar (オンライン)	Original Article
12	Shoji T, Niihata K, Fukuma S, et al.	血管病態制御学	Association of Erythropoietin Resistance with Fatigue in Hemodialysis Patients: A Cross-Sectional Study.	Nephron; 134(2):95-102, 2016 Oct	Original Article

13	Emoto M, Oura T, Matsui A, et al.	代謝内分泌病態内科学	Pancreatic safety in Japanese patients with type 2 diabetes treated with once weekly dulaglutide 0.75 mg up to 52 weeks in phase 3 clinical trials.	Endocrine J; 64(2):191-206, 2017 Feb	Original Article
14	Yasuaki Nagami	消化器内科	Locoregional steroid injection prevents stricture formation after endoscopic submucosal dissection for esophageal cancer: a propensity score matching analysis.	Surg Endosc. 30(4):1441-9	Original Article
15	Kazunari Tominaga	消化器内科	Structural changes in gastric glial cells and delayed gastric emptying as responses to early life stress and acute adulthood stress in rats.	Life Sci. 148:254-9.	Original Article
16	Kazunari Tominaga	消化器内科	Disorder of autonomic nervous system and its vulnerability to external stimulation in functional dyspepsia.	J Clin Biochem Nutr. 58(2):161-5.	Original Article
17	Shusei Fukunaga	消化器内科	Long-term prognosis of expanded-indication differentiated early gastric cancer treated with endoscopic submucosal dissection or surgery using propensity score analysis.	Gastrointest Endosc. 2016 Jun 27. [Epub ahead of print]	Original Article
18	Koji Otani	消化器内科	Colchicine prevents NSAID-induced small intestinal injury by inhibiting activation of the NLRP3 inflammasome	Sci Rep. 2016 Sep 2;6:32587. doi: 10.1038/srep32587.	Original Article
19	Yasuaki Nagami	消化器内科	Hybrid therapy with locoregional steroid injection and polyglycolic acid sheets to prevent stricture after esophageal endoscopic submucosal dissection.	Endosc Int Open. 2016 Sep;4(9):E1017-22. doi: 10.1055/s-0042-111906. Epub 2016 Aug 25.	Original Article
20	Fumio Tanaka	消化器内科	Concentration of Glial Cell Line-Derived Neurotrophic Factor Positively Correlates with Symptoms in Functional Dyspepsia.	Dig Dis Sci. 2016 Dec;61(12):3478-3485.	Original Article
21	Yasuaki Nagami	消化器内科	The five-year survival rate after endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal squamous cell neoplasia.	Dig Liver Dis. 2016 Dec 21. pii: S1590-8658(16)30829-5. doi:10.1016/j.dld.2016.12.009. [Epub ahead of print]	Case report
22	Yasuaki Nagami	消化器内科	Single locoregional triamcinolone injection immediately after esophageal endoscopic submucosal dissection prevents stricture formation	Clinical and Translational Gastroenterology. 2017 in press	Original Article
23	Hirokazu Yamagami	消化器内科	A comparison of short-term therapeutic efficacy between infliximab and tacrolimus for moderate to severe ulcerative colitis.	Rom J Intern Med. 2017 Feb 1. pii: /j/rjim.ahead-of-print/rjim-2017-0012/rjim-2017-0012.xml. doi: 10.1515/rjim-2017-0012. [Epub ahead of print]	Original Article
24	Tamori A, Yoshida K, Kurai O 他	肝胆膵病態内科学	Randomized trial of combined triple therapy comprising two types of peginterferon with simeprevir in patients with hepatitis C virus genotype 1b.	Hepatol Res. 2016 Mar 2.	Original Article
25	Tamori A, Enomoto M, Kawada N	肝胆膵病態内科学	Recent advances in antiviral therapy for chronic hepatitis C.	Mediators of Inflammation 2016.:6841628.doi:10.1155/2016/1571457	Review
26	Murakami Y and Kawada N.	肝胆膵病態内科学	MicroRNAs in hepatic pathophysiology.	Hepatol Res. 2016 Apr 21. doi: 10.1111/hepr.12730	Review

27	Morikawa H, Mano K, Horinaka H, 他	肝胆膵病態内科学	Development of non-invasive method for assessment of hepatic steatosis.	Ultrasonics. 2016 Dec;72:195-200.	Original Article
28	Morikawa H, Toyota S, Wada K, 他	肝胆膵病態内科学	Development of ultrasound-assisted fluorescence imaging of indocyanine green.	J Med Ultrason (2001). 2016 Aug 26. [Epub ahead of print]	Original Article
29	Fujii H, Yamaguchi S, Kurai O, 他	肝胆膵病態内科学	Putting "sticky notes" on the electronic medical record to promote intra-hospital referral of hepatitis B and C virus-positive patients to hepatology specialists: an exploratory study.	BMC Infect Dis. 2016 Aug 12;16:410. doi: 10.1186/s12879-016-1765-y.	Original Article
30	Fujii H, Nishimoto N, Yamaguchi S, 他	肝胆膵病態内科学	The Alcohol Use Disorders Identification Test for Consumption (AUDIT-C) is more useful than pre-existing laboratory tests for predicting hazardous drinking: a cross-sectional study.	BMC Public Health. 2016 May 10;16:379. doi: 10.1186/s12889-016-3053-6.	Original Article
31	Kozuka R, Hai H, Teranishi Y, 他	肝胆膵病態内科学	ITPA polymorphism correlates with the reductions in hemoglobin concentration and ribavirin dose during sofosbuvir and ribavirin therapy.	JGastroenterol Hepatol. 2017 Jan 20. doi: 10.1111/jgh.13743.	Original Article
32	Hamazaki T, El Roubay N, Fredette NC, et al.	小児科・新生児科	Concise Review: Induced Pluripotent Stem Cell Research in the Era of Precision Medicine.	Stem Cells. 2017 Mar;35(3):545-550.	Review
33	Daisuke Tokuhara, Yuki Cho, Haruo Shintaku	小児科・新生児科	Transient elastography-based liver stiffness age-dependently increases in children.	PLoS One. 2016;11:e0166683.	Original Article
34	Sakuma S, Halliday WC, Nomura R.et.al.	小児科・新生児科	Increased subcortical oligodendroglial-like cells in drug-resistant focal epilepsy children correlate with extensive epileptogenic zone.	Epilepsia;2016;57(12);2031-2038	Original Article
35	Ohnishi S, Ichiba H, Saito M. et al.	小児科・新生児科	Glucocorticoids and erythropoietin in chronic lung disease of prematurity: Proliferative potential in lung fibroblast and epithelial cells exposed to tracheal aspirates.	Pediatr Int. 2016;58(11):1163-1170.	Original Article
36	Ohnishi S, Ichiba H, Tanaka Y. et al.	小児科・新生児科	Early and Intensive Nutritional Strategy Combining Parenteral and Enteral Feeding Promotes Neurodevelopment and Growth at 18 months of Corrected Age and 3 Years of Age in Extremely Low Birth Weight Infants.	Early Hum Dev. 2016;100:35-41.	Original Article
37	Nishigaki S, Hamazaki T, Fujita K.et al.	小児科・新生児科	A Japanese Family with Central Hypothyroidism Caused by a Novel IGSF1 Mutation	Thyroid, 2016 Vol 26, p.1701-1705	Original Article
38	Nishigaki S, Hamazaki T, Tsuruhara A.et al.	小児科・新生児科	Clinical features of women with Turner syndrome experiencing transition period in Japan .	Endocrine Journal.2017;64(5);499-505	Original Article
39	Seto T, Yamamoto T, Shimojima K. et al.	小児科・新生児科	A novel COL1A1 mutation in a family with osteogenesis imperfecta associated with phenotypic variabilities.	Hum Genome Var. 2017; 4;17004	Case report
40	Miyawaki Dai	神経精神医学	Psychogenic nonepileptic seizures as a manifestation of psychological distress associated with undiagnosed autism spectrum disorder.	Neuropsychiatric Disorders and Treatment 12 185-189 2016	Case report

41	Yasunori Matsuda	神経精神医学	Association of the Clinical Subtype and Etiology for Delirium with the Outcome after Risperidone Monotherapy in Patients Having Cancer	Osaka City Medical Journal	Original Article
42	Yasuhiko Deguchi	神経精神医学	The Usefulness of Assessing and Identifying Workers' Temperaments and Their Effects on Occupational Stress in the Workplace.	PLoS One 11(5) 2016	Original Article
43	Yasuhiko Deguchi	神経精神医学	Relationships between Temperaments, Occupational Stress, and Insomnia among Japanese Workers.	PLoS ONE 12(4) 2017	Original Article
44	Tomoko Harada	神経精神医学	Clinical Features of Japanese Males with Anorexia Nervosa	Osaka City Medical Journal	Original Article
45	Imanishi A, Imanishi H, Yoshida Y, et al	皮膚科	Upregulation of TGF- $\beta$ 1 and basic FGF in elastofibroma: an immunohistochemical analysis	Medical Molecular Morphology. 2016 Jun; 49: 83-88	Original Article
46	Imanishi A, Imanishi H, Hiroyasu S, et al	皮膚科	Anti-BP180-type mucous membrane pemphigoid immunoglobulin G shows heterogeneity of internalization of BP180/collagen XVII into keratinocyte cytoplasm	Medical Molecular Morphology. 2016 Jun; 49: 89-97	Original Article/Letter
47	Mizukami Y, Sugawara K, Tsuruta D.	皮膚科	A case of scarring alopecia with Kikuchi-Fujimoto disease	International Journal of Dermatology. 2016 Aug; 55: e468-e470	Case report
48	Hashimoto T, Tsuruta, Yasukochi, et al	皮膚科	Granular C3 Dermatitis.	Acta Dermato-Venereologica. 2016 Aug; 96: 748-753	Original Article/Letter
49	Yanagishita S, Fukai K, Tsuruta D, et al	皮膚科	Dyschromatosis symmetrica hereditaria complicated by intracranial hemangiomas and Parry-Romberg syndrome.	Journal of Dermatology. 2016 Sep; 43: 1106-1108	Case report/Report
50	Kurniadi I, Imanishi H, Furukawa H, et al	皮膚科	Case of facial pyoderma gangrenosum	Journal of Dermatology. 2016 Nov; 43: 1373-1374	Case report
51	Umekoji A, Fukai K, Sowa-Osako J, et al	皮膚科	Allergic contact dermatitis caused by the preservative 4,5-dichloro-2-n-octyl-4-isothiazolin-3-one in black trousers.	Contact Dermatitis. 2016 Nov; 75: 326-328	Case report
52	Hashimoto T, Tsuruta D, Koga H, et al	皮膚科	Summary of results of serological tests and diagnoses for 4774 cases of various autoimmune bullous diseases consulted to Kurume University	British Journal Dermatology. 2016 Nov; 175: 953-965	Original Article
53	Kimura T, Sowa-Osako J, Nakai T, et al	皮膚科	Alectinib-Induced Erythema Multiforme and Successful Rechallenge with Alectinib in a Patient with Anaplastic Lymphoma Kinase-Rearranged Lung Cancer	Case Reports in Oncology. 2016 Dec; 9: 826-832	Case report
54	Ikkaku N, Tateishi C, Oda Y, et al	皮膚科	Linear immunoglobulin A bullous dermatosis developing during late pregnancy	J Dermatol. 2016; 44, e44-e45	Letter



55	Kono M, Fukai K, Omura R, et al	皮膚科	A case of epidermolytic ichthyosis showing a very mild phenotype due to a novel tail extension mutation in KRT10	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2016; 31, e68-e69	Case report
56	Kono M, Fukai K, Shimizu N, et al	皮膚科	Punctate palmoplantar keratoderma type 1 with a novel AAGAB frameshift mutation: intrafamilial phenotype variation due to ageing	J-Eur Acad Dermatol Venereol. 2016; 31, e175-e176	Letter
57	Kusutani N, Kamo R, Sowa-Osako J, et al	皮膚科	Onychocytic matricoma as an underrecognized benign mimicker of subungual malignant melanoma and Bowen's disease	J Dermatol. 2016; 44, e73-e74	Letter
58	Yamamoto A, Nishida N, Morikawa H, et al.	放射線科	Prediction for Improvement of Liver Function after Balloon-Occluded Retrograde Transvenous Obliteration for Gastric Varices to Manage Portosystemic Shunt Syndrome.	J Vasc Interv Radiol. 2016 27(8):1160-1167.	Original Article
59	Sakamoto S, Ikeda H, Tsuyuguchi N, et al.	放射線科	MEG Frequency Analysis Depicts the Impaired Neurophysiological Condition of Ischemic Brain.	PLoS One. 2016 11(12):e0168588.	Original Article
60	Yamamoto A, Hamamoto S, Matsuoka T, et al.	放射線科	Spontaneous Regression of Untreated Tumors with Immuno-Radiofrequency Ablation, RF Ablation in Combination with Local Injection of OK-432, in a Patient with Lung Metastases of Colon Cancer.	J Vasc Interv Radiol. 2017 28(3):477-479.	Letter
61	Joji Kawabe, Shigeaki Higashiyama Kohei Kotani.et al	核医学	Evaluation of ablation of thyroid remnants with 1,850 MBq iodine-131 in 67 patients with thyroid cancer.	Q J Nucl Med Mol Imaging. 2016 Apr (オンライン)	Original Article
62	Kohei Kotani, Joji Kawabe, Shigeaki Higashiyama. et al	核医学	Diffuse gallium-67 accumulation in the left atrial wall detected using SPECT/CT fusion images	Case Reports in Radiology. 2016 Dec(オンライン)	Original Article
63	Joji Kawabe, Shigeaki Higashiyama, Mitsuharu Sougawa.et al	核医学	Usefulness of stereotactic radiotherapy using cyberKnife for recurrent lymph node metastasis of differentiated thyroid cancer	Case Reports in Endocrinology. 2017 Mar(オンライン)	Original Article
64	Katsunobu Sakurai,Masachi Ohira,Tatsuro Tamura他	腫瘍外科	Predictive potential of preoperative nutritional status in long-term outcome projections for patients with gastric cancer	Annals of Surgical Oncology 23: 525-533, 2016	Original Article
65	Takahiro Toyokawa,Masaichi Ohira,Hiroaki Tanaka他	腫瘍外科	Optimal management for patients not meeting the inclusion criteria after endoscopic submucosal dissection for gastric cancer	Surgical Endoscopy 30: 2404-2414, 2016	Original Article

66	Masatsune Shibutani, Kiyoshi Maeda, Hisashi Nagahara他	腫瘍外科	Prognostic significance of the preoperative ratio of C-reactive protein to albumin in patients with colorectal cancer	Anticancer Research 36: 995-1001, 2016	Original Article
67	Satoru Noda, Naoyoshi Onoda, Yuka Asano他	腫瘍外科	Predictive factors for the occurrence of four or more axillary lymph node metastases in ER-positive and HER2-negative breast cancer patients with positive sentinel node: A retrospective cohort study	International Journal of Surgery 26: 1-5, 2016	Original Article
68	Tsutomu Takashima, Seika Tei, Shigehiko Nishimura他	腫瘍外科	A phase II, multicenter, single-arm trial of eribulin as first-line chemotherapy for HER2-negative locally advanced or metastatic breast cancer	Springerplus 5:164, (Online 8pages), 2016	Original Article
69	Tsutomu Takashima, Hirohumi Mukai, Fumika Hara他	腫瘍外科	Taxanes versus S-1 as the first-line chemotherapy for metastatic breast cancer (SELECT BC): an open-label, non-inferiority, randomised phase 3 trial	Lancet Oncology 17: 90- 8, 2016	Original Article
70	Masakazu Yashiro, Tsubasa Matsuoka	腫瘍外科	Fibroblast growth factor receptor signaling as therapeutic targets in gastric cancer	World Journal of Gastroenterology 22: 2415-2423, 2016	Original Article
71	Masakazu Ohira, Takahiro Toyokawa, Katsunobu Sakurai他	腫瘍外科	Current status in remnant gastric cancer after distal gastrectomy	World Journal of Gastroenterology 22: 2424-2433, 2016	Original Article
72	Kenjiro Kimura, Ryosuke Amano, Sadaaki Yamazoe他	腫瘍外科	Evaluation of the prognostic significance of 'High-risk Stigmata' in the international consensus guidelines 2012 for Intraductal papillary mucinous neoplasm	Surgery Current Research 5:234 (Online 5pages), 2015	Original Article
73	Takahiro Toyokawa, Naoshi Kubo, Tatsuhiro Tamura他	腫瘍外科	The pretreatment Controlling Nutritional Status (CONUT) score is an independent prognostic factor in patients with resectable thoracic esophageal squamous cell carcinoma: results from a retrospective study	BMC Cancer 16:722, (Online 11pages), 2016	Original Article

74	Masatsune Shibutani, Kiyoshi Maeda, Hisashi Nagahara他	腫瘍外科	The significance of the C-reactive protein to albumin ratio as a marker for predicting survival and monitoring chemotherapeutic effectiveness in patients with unresectable metastatic colorectal cancer	Springerplus 5:1798, (Online 8pages), 2016	Original Article
75	Katsunobu Sakurai, Tatsuhiro Tamura, Takahiro Toyokawa他	腫瘍外科	Low preoperative prognostic nutritional index predicts poor survival post-gastrectomy in elderly patients with gastric cancer	Annals of Surgical Oncology 23: 3669-3676, 2016	Original Article
76	Kubo S, Takemura S, Tanaka S, et al.	肝胆膵外科学	Screening and surveillance for occupational cholangiocarcinoma in workers exposed to organic solvents	Surgery Today Jun;46(6);705-712:2016	Original Article
77	Tanaka S, Kaibori M, Ueno M, et al.	肝胆膵外科学	Surgical outcomes for the ruptured hepatocellular carcinoma: multicenter analysis with a case-controlled study	Journal of Gastrointestinal Surgery Dec;20(12):2021-2034:2016	Original Article
78	Tanaka S, Kubo S, Kanazawa A, et al	肝胆膵外科学	Validation of a difficulty scoring system for laparoscopic liver resection: a multicenter analysis by the Endoscopic Liver Surgery Study Group in Japan.	Journal of American College of Surgeons S1072-7515(17)30351-4:2017	Original Article
79	Takeo Goto, Kenji Ohata	脳神経外科	Surgical Resectability of Skull Base Meningiomas.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2016 Jul 15;56(7):372-8.	Original Article
80	Yamanaka K, Iwai Y, Shuto T, et al.	脳神経外科	Treatment Results of Gamma Knife Radiosurgery for Central Neurocytoma: Report of a Japanese Multi-Institutional Cooperative Study.	World Neurosurg. 2016 Jun;90:300-5.	Original Article
81	Uda T, Samantha T, Tsuyuguchi N, et al.	脳神経外科	Anatomic Understanding of Vertical Hemispherotomy With Cadaveric Brains and Intraoperative Photographs.	Operative Neurosurgery. 2016 Dec. 12(4), 374-382.	Original Article
82	Hiroki Morisako, Takeo Goto, Hiroyuki Goto, et al.	脳神経外科	Aggressive surgery based on an anatomical subclassification of craniopharyngiomas.	Neurosurg Focus. 2016 Dec;41(6)	Original Article
83	Hideyuki Minoda, Shigeru Nakagawa, Ryou Sugama他	整形外科	Decreased extension gap and valgus alignment after implantation of total knee prosthesis in primary varus knees.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2016 Nov;24(11):3642-3647.	Original Article
84	Hideyuki Minoda, Mitsuhiro Ikebuti, Shigekazu Mizokawa他	整形外科	Mobile-bearing TKA improved the anteroposterior joint stability in mid-flexion range comparing to fixed-bearing TKA.	Arch Orthop Trauma Surg. 2016 Nov;136(11):1601-1606.	Original Article
85	Hideyuki Minoda, Kanako Hata, Mitsuhiro Ikebuti他	整形外科	Comparison of in vivo polyethylene wear particles between mobile- and fixed-bearing TKA in the same patients.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2016 Feb 4. (オンライン)	Original Article
86	Hideyuki Minoda, Shigekazu Mizokawa, Yochiro Oota他	整形外科	Posterior reference guides do not always maintain the size of posterior femoral condyles in TKA.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2016 Aug;24(8):2489-95.	Original Article

87	Akinobu Suzuki, Kouji Tamai, Hidehumi Terai 他	整形外科	Clinical Outcome of Cervical Laminoplasty and Postoperative Radiological Change for Cervical Myelopathy With Degenerative Spondylolisthesis.	Spine (Phila Pa 1976). 2016 Dec 1;41(23):1808-1812.	Original Article
88	Shinnji Takahashi, Masatoshi Hoshino, Kazushi Takayama 他	整形外科	Predicting delayed union in osteoporotic vertebral fractures with consecutive magnetic resonance imaging in the acute phase: a multicenter cohort study.	Osteoporos Int. 2016 Dec;27(12):3567-3575.	Original Article
89	Tadashi Okano, Kentaro Inui, Masahiro Tada 他	整形外科	Levels of interleukin-1 beta can predict response to tocilizumab therapy in rheumatoid arthritis: the PETITE (predictors of effectiveness of tocilizumab therapy) study.	Rheumatol Int. 2016 Mar;36(3):349-57.	Original Article
90	Yuki Hashiguti, Mari Kasai, Takeshi Fukuda 他	産婦人科	Serum Sialyl-Tn (STN) as a Tumor Marker in Patients with Endometrial Cancer.	Pathol Oncol Res. 2016 July;22(3):501-504.	Original Article
91	A. Hamuro, D. Tachibana, H. Wang	産婦人科	Combined reconstructive surgery involving uterosacral colpopexy and anterior vaginal mesh implantation for pelvic organ prolapse.	J Obstet Gynaecol Res. 2016 Jun;42(6):707-715	Original Article
92	Kato M, Banuelos CA, Imamura Y et al.	泌尿器科	Cotargeting Androgen Receptor Splice Variants and mTOR Signaling Pathway for the Treatment of Castration-Resistant Prostate Cancer.	Clin Cancer Res. 2016 Jun 1;22(11):2744-54.	Original Article
93	Uchida J, Iwai T, Kuwabara N et al.	泌尿器科	Clinical Experience of Late Conversion From Antimetabolites With Standard Exposure Calcineurin Inhibitors to Everolimus With Calcineurin Inhibitor Minimization in Stable Kidney Transplant Recipients With Good Renal Function.	Transplant Proc. 2016 Apr;48(3):775-80	Original Article
94	Uchida J, Iwai T, Kabei K et al.	泌尿器科	ABO-Incompatible Living Kidney Transplant Recipients from Spousal Donors Receiving Rituximab	Urol Int. 2016;97(4):457-465.	Original Article
95	Naganuma T, Takemoto Y, Iwai T et al.	泌尿器科	Effects of Granulocyte and Monocyte Adsorptive Apheresis in Renal Transplantation Recipients With Concomitant Cytomegalovirus Infection.	Transplant Proc. 2016 Apr;48(3):929-32.	Original Article
96	Uchida J.	泌尿器科	Editorial Comment to Diabetes mellitus after kidney transplantation in Japanese patients: The Japan Academic Consortium of Kidney transplantation study	Int J Urol. 2017 Mar;24(3):204-205.	Others
97	Koichi Suehiro, et al.	麻酔科学講座	Transcutaneous near-infrared spectroscopy for monitoring spinal cord ischemia: an experimental study in swine	Journal of Clinical Monitoring and Computing 2016 Oct;31 :975-979	Original Article
98	Koichi Suehiro, Katsuaki Tanaka, Akira Mukai, et al.	麻酔科学講座	Hemodynamic monitoring and management in high-risk surgery: a survey among Japanese anesthesiologists	Journal of Anesthesia. 2016 June; 30: 526-9	Original Article

99	Koh H, Aimoto M, Matsuhisa A, et al	血液内科・造血細胞移植科	Combinational approach using in situ hybridization targeting 23S ribosomal RNA genes and blood cultures for bacterial identification in patients with neutropenia and fever.	J Infect Chemother. 2016 Oct;22(10):697-703	Original Article
100	Takeoka Y, Sakatoku K, Miura A, et al	血液内科・造血細胞移植科	Prognostic Effect of Low Subcutaneous Adipose Tissue on Survival Outcome in Patients With Multiple Myeloma.	Clin Lymphoma Myeloma Leuk. 2016 Aug;16(8):434-41	Original Article
101	Koh H, Aimoto M, Katayama T, et al	血液内科・造血細胞移植科	Diagnostic value of levels of presepsin (soluble CD14-subtype) in febrile neutropenia in patients with hematological disorders.	J Infect Chemother. 2016 2016 Jul;22(7):466-71	Original Article
102	Nakamae M, Yamashita M, Koh H, et al	血液内科・造血細胞移植科	Lung function score including a parameter of small airway disease as a highly predictive indicator of survival after allogeneic hematopoietic cell transplantation.	Transpl Int. 2016 Jun;29(6):707-14	Original Article
103	Kenichiro Uchida, Tetsuro Nishimura, Hiroharu Takesada, et al.	救急医学	Evaluation of efficacy and indications of surgical fixation for multiple rib fractures: a propensity-score matched analysis	Eur J Trauma Emerg Surg. DOI:10.1007/s00068-0687-0/2016 Jun (オンライン)	Original Article
104	Kenichiro Uchida, Mitsuharu Hosono, Toshihiko Shibata, et al.	救急医学	Surgical treatment for thoracoabdominal intra-aortic thrombus with multiple infarctions: a case report	J Med Case Report DOI: 10.1186/s13256-016-1017-1/2016 Aug (オンライン)	Case report
105	Yasumitsu Mizobata	救急医学	Damage control resuscitation: a practical approach for severely hemorrhagic patients and its effects on trauma surgery	J int care DOI: 10.1186/s40560-016-0197-5/2017 Jan (オンライン)	Review
106	Hitoshi Yamamura, Takasei Morioka, Tomonori Yamamoto, et al.	救急医学	Head computed tomographic measurement as a predictor of outcome in patients with subdural hematoma with cerebral edema	Scand J Trauma Res Emerg Med DOI:10.1186/s13049-016-0271-y/2016 Jun (オンライン)	Original Article
107	Tomoya Hirose, Futoshi Kimbara, Masahiro Shinozaki, et al.	救急医学	Screening for hereditary angioedema at 13 emergency centers in Osaka, Japan	Medicine 2017 Feb; (オンライン)	Case report

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	首藤太一	総合医学教育学/総合診療 センター	次世代の良医育成を目指して 最近の若者気質と 本学の取り組みから	大阪府内科医会会誌. 2016 Oct; 25: 163-72	Review
2	竹本恭彦	総合医学教育学/総合診療 センター	反転授業の夜明けとこれからの新しい展開	新しい医学教育の流れ. 2016 May ; 15: 225-27	Letter
3	鎌田紀子	総合医学教育学/総合診療 センター	炎症性腸疾患に対するアフエレシスの進歩と工夫】 クローン病における生物学的製剤治療の現状と問 題点 効果減弱例に対する血球除去療法の位置 づけと今後の展望	日本アフエレシス学会雜 誌. 2016 May; 35: 138-41	Review
4	渡辺俊雄	消化器内科	Mechanisms of NLRP3 inflammasome activation and its role in NSAID-induced enteropathy.	Mucosal Immunol. 9(3):659-68.	Original Article
5	谷川徹也	消化器内科	Reduction of prostaglandin transporter predicts poor prognosis associated with angiogenesis in gastric adenocarcinoma.	J Gastroenterol Hepatol. 31(2):376-83	Original Article
6	富永和作	消化器内科	Comparison of Risk Factors Between Small Intestinal Ulcerative and Vascular Lesions in Occult Versus Overt Obscure Gastrointestinal Bleeding.	Dig Dis Sci. 61(2):533-41.	Original Article
7	藤原靖弘	消化器内科	Long-Term Benefits of Smoking Cessation on Gastroesophageal Reflux Disease and Health- Related Quality of Life.	PLoS One. 11(2):e0147860	Original Article
8	藤原靖弘	消化器内科	Characteristics of Sleep Disturbances in Patients with Gastroesophageal Reflux Disease.	Intern Med. 55(12):1511- 7.	Original Article
9	藤原靖弘	消化器内科	Alteration of Esophageal Microbiome by Antibiotic Treatment Does Not Affect Incidence of Rat Esophageal Adenocarcinoma.	Dig Dis Sci. 2016 Jul 26. [Epub ahead of print]	Original Article
10	永見康明	消化器内科	Prediction of Poor Response to Modified Neuroleptanalgesia with Midazolam for Endoscopic Submucosal Dissection for Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Digestion. 2016 Aug 20;94(2):73-81.	Original Article
11	荒川哲也	消化器内科	Similar Efficacy of Proton-Pump Inhibitors vs H2- Receptor Antagonists in Reducing Risk of Upper Gastrointestinal Bleeding or Ulcers in High-risk Users of Low-dose Aspirin.	Gastroenterology. 2016 Sep 15. pii: S0016- 5085(16)35031-4. doi: 10.1053/j.gastro.2016.09. 006. [Epub ahead of print]	Original Article
12	藤原靖弘	消化器内科	Sleep disturbances in Japanese patients with inflammatory bowel disease and their impact on disease flare.	Springerplus. 2016 Oct 13;5(1):1792.	Original Article

13	斯波将次	消化器内科	A comparison between capsule endoscopy and double balloon enteroscopy using propensity score-matching analysis in patients with previous obscure gastrointestinal bleeding.	Scand J Gastroenterol. 2016 Nov 13:1-6. [Epub ahead of print]	Original Article
14	渡辺俊雄	消化器内科	NLRP3 inflammasome has a protective effect against oxazolone-induced colitis: a possible role in ulcerative colitis.	Sci Rep. 2016 Dec 14;6:39075.	Original Article
15	細見周平	消化器内科	Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio for Predicting Loss of Response to Infliximab in Ulcerative Colitis.	PLoS One. 2017 Jan 11;12(1):e0169845. doi: 10.1371/journal.pone.0169845.	Original Article
16	細見周平	消化器内科	Analysis of the Risk Factors of Surgery after Endoscopic Balloon Dilation for Small Intestinal Strictures in Crohn's Disease Using Double-balloon Endoscopy	Intern Med. in press	Original Article
17	杉森聖司	消化器内科	Brushing the distal biliary stricture of surrounding the papilla increased the risk of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis: A retrospective study using propensity score analysis	United European Gastroenterology Journal (in press)	Original Article
18	Matsumura H, Ichiba H, Ohnishi S他	小児科・新生児科	Histologic Chorioamnionitis, Amniotic Fluid Interleukin 6, Krebs von den Lungen 6, and Transforming Growth Factor $\beta$ 1 for the Development of Neonatal Bronchopulmonary Dysplasia.	Jpn Clin Med. 2017;8; 1179066017696076	Original Article
19	Yotani N, Kizawa Y, Shintaku H.	小児科・新生児科	Differences between Pediatricians and Internists in Advance Care Planning for Adolescents with Cancer.	J Pediatr. 2017 Mar;182:356-362.	Original Article
20	Odagiri S, Tokuhara D, Nishigaki S他	小児科・新生児科	Double pancreatic tumors in an adolescent: Imaging features.	Pediatr Int. 2016 Nov;58(11):1239-1242.	Case report
21	Purevsuren J, Bolormaa B, Narantsetseg C他	小児科・新生児科	The first Mongolian cases of phenylketonuria in selective screening of inborn errors of metabolism.	Mol Genet Metab. 2016 ;9:71-74.	Case report
22	Kubaski F, Mason RW, Nakatomi A 他	小児科・新生児科	Newborn screening for mucopolysaccharidoses: a pilot study of measurement of glycosaminoglycans by tandem mass spectrometry.	J Inherit Metab Dis. 2017 Jan;40(1):151-158.	Original Article
23	Yanai S, Tokuhara D, Tachibana D 他	小児科・新生児科	Diabetic pregnancy activates the innate immune response through TLR5 or TLR1/2 on neonatal monocyte.	J Reprod Immunol. 2016 Sep;117:17-23.	Original Article
24	Yasuda E, Suzuki Y, Shimada T他	小児科・新生児科	Activity of daily living for Morquio A syndrome.	Mol Genet Metab. 2016 Jun;118(2):111-22.	Original Article

25	Yanagishita S, Fukai K, Tsuruta D他	小児科・新生児科	Dyschromatosis symmetrica hereditaria complicated by intracranial hemangiomas and Parry-Romberg syndrome.	J Dermatol. 2016 Sep;43(9):1106-8.	Letter
26	Miyawaki D, Iwakura Y, Seto T, et al.	小児科・新生児科	Psychogenic nonepileptic seizures as a manifestation of psychological distress associated with undiagnosed autism spectrum disorder.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2016 Jan 18;12:185-9.	Case report
27	大澤 純子、瀬戸 俊之、他	小児科・新生児科	前頭葉てんかん様の発作を呈し、難治に経過した内側側頭葉てんかんの女児例	大阪てんかん研究会雑誌 (0918-9319)27巻1号 Page1-7(2016.11)	Case report
28	井上 幸紀	神経精神医学	動物モデル研究からみた過食	ストレス科学 30(4) 243-251 2016	Review
29	井上 幸紀	神経精神医学	医療現場のメンタルヘルスの課題と取り組み	精神科治療学 31(1) 95-100 2016	Review
30	井上 幸紀	神経精神医学	睡眠障害に対する薬物処方の実際～糖尿病患者を念頭に～	月刊糖尿病 8(11) 100-109 2016	Review
31	宮脇 大	神経精神医学	児童思春期の摂食障害	精神科 28(2) 296-303 2016	Review
32	片上素久	神経精神医学	大学病院におけるインターネット使用障害外来の試み	臨床精神医学 45 1559-1563 2016	Review
33	山内常生	神経精神医学	特集「鑑別しにくい精神症状や行動障害をどう診分けるか」、「摂食障害患者にみられる食行動異常」	精神科治療学 32(1) 85-89 2016	Review
34	金山 美恵, 立石 千晴, 平田 央, 他	皮膚病態学	急性骨髄性白血病に対する臍帯血移植後に生じた好酸球性膿疱性毛包炎の1例	皮膚の科学. 2016 Aug; 15: 254-258	Original Article/Case report
35	大村 玲奈, 深井 和吉, 菅原 弘二, 他	皮膚病態学	Epidermolytic ichthyosisの電子顕微鏡のおよび免疫組織化学的観察	日本小児皮膚科学会雑誌. 2016 Oct; 35: 171-175	Original Article/Case report
36	大沢 淑恵, 鶴田 大輔	皮膚病態学	表皮下水疱症のすべて	皮膚病診療. 2016 Oct; 38: 958-963	Review
37	松岡 潤子, 深井 和吉, 林 大輔, 他	皮膚病態学	嚥下障害を来たしガンマグロブリン大量静注療法が有効であった胃癌合併抗TIF1抗体陽性皮膚筋炎の1例	皮膚の科学. 2016 Oct; 15: 345-350.	Original Article/Case report
38	松岡 潤子, 大迫 順子, 鶴田 大輔, 他	皮膚病態学	毛孔性紅色皰瘡疹との鑑別を要した乾癬性紅皮症の1例	皮膚科の臨床. 2016 Apr; 58: 568-571	Original Article/Case report
39	笠島裕明 八代正和 木下春人 ほか	腫瘍外科	Lysyl oxidase is associated with the epithelial-mesenchymal transition of gastric cancer cells in hypoxia	Gastric Cancer 19:431-442, 2016	Original Article
40	浅野有香 柏木伸一郎 小野田尚佳 ほか	腫瘍外科	Predictive value of neutrophil/lymphocyte ratio for efficacy of preoperative chemotherapy in triple-negative breast cancer	Annals of Surgical Oncology 23:1104-1110, 2016	Original Article



41	増田 剛 八代正和 北山紀州 ほか	腫瘍外科	Clinicopathological correlations of autophagy-related proteins LC3, Beclin 1 and p62 in gastric cancer	Anticancer Research 36: 129-136, 2016	Original Article
42	浅野有香 柏木伸一郎 小野田尚佳 ほか	腫瘍外科	Clinical verification of sensitivity to preoperative chemotherapy in cases of androgen receptor-expressing positive breast cancer	British Journal of Cancer 114: 14-20, 2016	Original Article
43	三浦光太郎 木村健二郎 天野良亮 ほか	腫瘍外科	Establishment and characterization of new cell lines of anaplastic pancreatic cancer, which is a rare malignancy: OCUP-A1 and OCUP-A2	BMC Cancer 16:268: (Online 13pages), 2016	Original Article
44	浅野有香 柏木伸一郎 後藤 航 ほか	腫瘍外科	Tumour-infiltrating CD8 to FOXP3 lymphocyte ratio in predicting treatment responses to neoadjuvant chemotherapy of aggressive breast cancer	British Journal of Surgery 103: 845-854, 2016	Original Article
45	浅野有香 柏木伸一郎 小野田尚佳 ほか	腫瘍外科	Platelet-lymphocyte ratio as a useful predictor of the therapeutic effect of neoadjuvant chemotherapy in breast cancer	PLoS One 11: e0153459(Online 9pages)2016	Original Article
46	田内幸枝 田中浩明 徳本真央 ほか	腫瘍外科	Tumor-associated macrophages induce capillary morphogenesis of lymphatic endothelial cells derived from human gastric cancer	Cancer Science 107: 1101-1109, 2016	Original Article
47	井関康仁 澁谷雅常 前田 清 ほか	腫瘍外科	Prognostic significance of microRNA-21 expression in patients with unresectable metastatic colon cancer	Anticancer Research 36: 5145-5152, 2016	Original Article
48	笠島裕明 八代正和 北山紀州 ほか	腫瘍外科	CXCL1eChemokine (C-X-C Motif) receptor 2 signaling stimulates the recruitment of bone marrow-derived mesenchymal cells into diffuse-type gastric cancer stroma	American Journal of Pathology 186: 3028-3039, 2016	Original Article
49	倉田研人 小野田尚佳 野田 諭 ほか	腫瘍外科	Growth arrest by activated BRAF and MEK inhibition in human anaplastic thyroid cancer cells	International Journal of Oncology 49: 2303-2308, 2016	Original Article
50	登千穂子 木村健二郎 大平 豪 ほか	腫瘍外科	Giant duodenal ulcers after neurosurgery for brainstem tumors that required reoperation for gastric disconnection: a report of two cases	BMC Surgery 16: 75, (Online 5pages), 2016	Original Article
51	Kubo S, Takemura S, Tanaka S, et al.	肝胆膵外科学	Outcomes after resection of occupational cholangiocarcinoma	Journal of Hepato-Biliary Pancreatic Sciences Sep:23(9):556-564:2016	Original Article
52	李 榮柱、藤原 有史	肝胆膵外科(食道)	A case of video-assisted thoracoscopic radical esophagectomy for cancer in a patient with essential thrombocythemia	Esophagus 13:369-373,2016	Case report
53	李 榮柱	肝胆膵外科(食道)	胸腔鏡下食道癌手術(左側臥位)	消化器外科 4月臨時増刊号 39(5):527-534,2016	Review
54	李 榮柱	肝胆膵外科(食道)	食道癌手術(開胸開腹手術・胸腔鏡下手術)	消化器外科 39(9):1237-1248,2016	Review

55	李 榮柱	肝胆膵外科(食道)	Enteral Diet Enriched with $\omega$ -3 Fatty Acid Improves Oxygenation After Thoracic Esophagectomy for Cancer: A Randomized Controlled Trial	World Journal of Surgery 41:1584-1594,2017	Original Article
56	Mitsuhashi Y, Hayasaki K, Kawakami T, et al.	脳神経外科	Dural Venous System in the Cavernous Sinus: A Literature Review and Embryological, Functional, and Endovascular Clinical Considerations.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2016 Jun 15;56(6):326-39.	Original Article
57	Yamagata T, Nito K, Arima H, et al.	脳神経外科	A minimum 2-year comparative study of autologous cancellous bone grafting versus beta-tricalcium phosphate in anterior cervical discectomy and fusion using a rectangular titanium stand-alone cage	Neurosurg Rev. 2016 Jul;39(3):475-82.	Original Article
58	Irwan Barlian Immadoel Haq, Takeo Goto, et al.	脳神経外科	Dural incision in the petrosal approach with preservation of the superior petrosal vein.	J Neurosurg. 2016 Apr;124(4):1074-8.	Original Article
59	Pre Nimmannitya, Takeo Goto, Yuzou Terakawa, et al.	脳神経外科	Characteristic of optic canal invasion in 31 consecutive cases with tuberculoma sellae meningioma	Neurosurg Rev. 2016 Oct;39(4):691-7.	Original Article
60	Shimokawa N, Satoh H, Takami T, et al.	脳神経外科	Image-guided Spine Stabilization for Traumatic Or Osteoporotic Spine Injury: Radiological Accuracy and Neurological Outcome.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2016 Aug 15;56(8):493-500.	Original Article
61	Shimokawa N, Takami T.	脳神経外科	Surgical safety of cervical pedicle screw placement with computer navigation system.	Neurosurg Rev. 2017 Apr;40(2):251-258.	Original Article
62	Hideki Nakajima, Kazuhiro Yamanaka, Kenichi Ishibashi, et al.	脳神経外科	Delayed cyst formations and/or expanding hematomas developing after Gamma Knife surgery for cerebral arteriovenous malformations.	J Clin Neurosci. 2016 Nov;33:96-99.	Original Article
63	Iwai Y, Ishibashi K, Yamanaka K, et al.	脳神経外科	Functional Outcomes of Salvage Surgery for Vestibular Schwannomas after Failed Gamma Knife Radiosurgery.	World Neurosurg. 2016 Jun;90:385-90.	Original Article
64	Christian Aisse Bohoun, Yuzo Terakawa, Takeo Goto, et al.	脳神経外科	Schwannoma-like tumor in the anterior cranial fossa immunonegative for Leu7 but immunopositive for Schwann/2E.	Neuropathology. 2017 Jun;37(3):265-271.	Original Article
65	内藤 堅太郎、大畑 建治、高見 俊宏、他	脳神経外科	脊髄円錐近傍から発生する髄内・髄外腫瘍に対する片側椎弓切除による腫瘍切除の適応基準	日本脊髄障害医学会誌, 29(1), 76-77, 2016	Original Article
66	高見 俊宏、内藤 堅太郎、大畑 建治、他	脳神経外科	脊髄辺縁部動静脈瘻に対する外科治療—直達手術の安全性と根治性—	脊椎脊髄ジャーナル12, 29(12), 1087-1092, 2016	Original Article
67	高見 俊宏、黒川 龍、関 俊隆、他	脳神経外科	脊椎脊髄疾患の治療に関する指針(ガイドライン) 脊髄神経膠腫の外科治療に関する指針	脊髄外科, 30(1), 2-40, 2016	Original Article

68	後藤 剛夫	脳神経外科	Transpetrosal approaches	脳神経外科速報, 26, 1026-1033, 2016	Original Article
69	森迫 拓貴、 後藤 剛夫、 宇田 武弘、 他	脳神経外科	術前3Dシミュレーションに基づいた摘出困難な頭蓋底腫瘍に対する手術戦略	CI研究, 37(2), 73-78, 2016	Original Article
70	橋本 祐介、 山崎 真哉、 瀧上 順誠他	整形外科	snappingを伴う円板状半月に対する過伸展深屈曲MRIの有用性	日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌. 2016. 41(1). 220-221.	Original Article
71	間中 智哉、 伊藤 陽一、 市川 耕一他	整形外科	我々が経験したリバーズ型人工肩関節置換術の術中・術後合併症	肩関節. 2016. 40(2). 701-704.	Original Article.
72	星 学、大戎直人、家口尚他	整形外科	In situ preparation法を併用した四肢骨軟部悪性腫瘍手術における機能温存手術	中部日本整形外科災害外科学会雑誌. 2106. 59(2). 217-218.	Original Article
73	上村 卓也、 横井 卓哉、 新谷 康介他	整形外科	テリパラチド投与によって骨癒合が得られた尺骨短縮骨切り術後骨癒合不全の1例.	中部日本整形外科災害外科学会雑誌. 59(6). 1247-1248.	Case report
74	洲鎌 亮、小林 章郎、原口 圭司他	整形外科	全人工膝関節置換術での関節周囲多剤カクテル療法におけるステロイドの意義 -術後腫脹への影響に注目して-	中部日本整形外科災害外科学会雑誌. 2106. 59(2). 275-276.	Original Article
75	井口 広義	耳鼻いんこう科	【頸部腫瘍を見極める】唾液腺腫脹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 88(9), 650-656, 2016	Original Article
76	井口 広義	耳鼻いんこう科	【外来に必須! 外用薬の上手な使い方】 口腔・咽喉頭領域 含嗽薬	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 88(12), 936-939, 2016	Original Article
77	井口 広義	耳鼻いんこう科	上咽頭癌 nasopharyngeal carcinoma (NPC)	今日の治療指針2017 1489-1490, 2017	Original Article
78	井口 広義	耳鼻いんこう科	頭頸部癌学「頭頸部悪性リンパ腫の診断と治療」	日本臨床 75増刊号2: 570-574, 2017	Original Article
79	阪本 浩一	耳鼻いんこう科	手術手技 私が愛用する手術器具 バイポーラン ガス	JOHNS 32(5), 661-663, 2016	Original Article
80	阪本 浩一	耳鼻いんこう科	小児心因性難聴の診断とその背景	耳鼻咽喉科臨床109(12), 890-891, 2016	Original Article
81	阪本 浩一	耳鼻いんこう科	ケミカルメディエーター遊離抑制薬はどのような患者の治療に有効か	鼻アレルギーフロンティア 17(1), 22, 2017	Original Article
82	阪本 浩一	耳鼻いんこう科	アレルギー性鼻炎患者に点鼻用血管収縮薬はどのように使用すれば良いか	鼻アレルギーフロンティア 17(1), 23, 2017	Original Article
83	阪本 浩一	耳鼻いんこう科	症状からみた対応と病院に送るタイミング 咳	JOHNS 33(5), 617-621, 2017	Original Article
84	岡本 幸美	耳鼻いんこう科	梅毒による頬部瘻孔が疑われた例	日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会誌 4(2)号, 128-131, 2016	Case report

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 設置要件、設置者の責務、委員会の役割と責務、委員会の構成及び会議の成立要件等、迅速審査、外部の研究機関等が実施する研究等に関する審査	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 目的、設置、定義、研究者の責務、組織、委員の任期、審議事項、会議、部会、委員長の職務、秘密保持、不服申し立て、事務、その他	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回
・ 研修の主な内容 CRCの役割、データセンターの役割、モニタリングについて、利益相反について、倫理審査申請書作成のポイント、指針が求めている補償措置、医薬品開発のプロセスについて、REDCap、医療統計、臨床研究のパブリケーションマネジメント	

- (注) 前年度の実績を記載すること。



(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- (1) 的確な診断のもと、治療方針・治療計画を決定し、その後の治療効果と予後の判定ができるよう、年次ごとの到達目標を定めて研修プログラムを作成している
- ・臨床実地研修として、複数の症例を受け持ち、指導医とペアにするなどの指導体制のもと、指導や助言を行う
  - ・患者回診や症例検討会へ参加
  - ・ローテーションを行い、幅広い知識や症例数を知る
  - ・検査手法や基本手術手法の習得
  - ・手術前および術後管理の習得
- (2) 専門医を受験・取得するための研修プログラムを用意
- ・各学会へ参加
  - ・学会提供の教育プログラム等への参加
  - ・抄読会またはセミナー（CPC含む）への参加
  - ・症例報告を含む臨床論文の作成
- (3) その他
- ・大学院希望者については、学位取得を目指し、研究等に専念する期間を設けている

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	205 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

### 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
平田 一人	内科	診療科部長	39年	
葭山 稔	循環器内科	診療科部長	37年	
平田 一人	呼吸器内科	診療科部長	39年	
稲葉 雅章	糖尿病・代謝内科	診療科部長	39年	
稲葉 雅章	内分泌内科	診療科部長	39年	
稲葉 雅章	腎臓内科	診療科部長	39年	
葭山 稔	リウマチ科	診療科部長	37年	
藤原 靖弘	消化器内科	診療科部長	29年	
河田 則文	肝臓・胆嚢・膵臓内科	診療科部長	33年	
日野 雅之	血液内科	診療科部長	32年	
新宅 治夫	小児科	診療科部長	39年	
新宅 治夫	小児科(新生児)	診療科部長	39年	
井上 幸紀	精神科	診療科部長	31年	
鶴田 大輔	皮膚科	診療科部長	25年	
三木 幸雄	放射線科	診療科部長	32年	
三木 幸雄	放射線治療科	診療科部長	32年	
柴田 利彦	外科	診療科部長	32年	
大平 雅一	消化器外科	診療科部長	37年	
久保 正二	肝臓・胆嚢・膵臓外科	診療科副部長	36年	
大平 雅一	乳腺外科	診療科部長	37年	
柴田 利彦	心臓血管外科	診療科部長	32年	
西山 典利	呼吸器外科	診療科副部長	32年	
緒富 嘉樹	小児外科	診療科副部長	30年	
大畑 健治	脳神経外科	診療科部長	38年	
中村 博亮	整形外科	診療科部長	35年	
仲谷 達也	泌尿器科	診療科部長	33年	
古山 将康	産婦人科	診療科部長	37年	
白木 邦彦	眼科	診療科部長	39年	
井口 広義	耳鼻いんこう科	診療科部長	29年	
西川 精宣	麻酔科	診療科部長	38年	
元村 尚嗣	形成外科	診療科部長	22年	
伊藤 義彰	神経内科	診療科部長	26年	
大澤 政彦	病理診断科	診療科部長	33年	
溝端 康光	救急科	診療科部長	32年	
中原 寛和	歯科・口腔外科	診療科部長	29年	
掛屋 弘	感染症内科	診療科部長	25年	
中村 博亮	リハビリテーション科	診療科部長	35年	
日野 雅之	臨床検査科	診療科部長	32年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 平川 弘聖
管理担当者氏名	事務部長 柏村 佳代、庶務課長 浅井 数也、医事運営課兼情報システム課長 平井 祐範、患者支援課長 赤曾部 泰一、医療安全管理部長 仲谷 達也、感染制御部長 掛屋 弘、看護部長 大脇 和子、薬剤部長 永山 勝也、臨床工学部主査 松尾 光則

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	看護部
		処方せん	薬剤部
		手術記録	看護部 (OPE室)
		看護記録	情報システム課
		検査所見記録	情報システム課
		エックス線写真	情報システム課
		紹介状	情報システム課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	情報システム課
			看護記録・検査所見記録・エックス線写真・紹介状・退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書については、電子カルテ内で保管。その他については、各所属で簿冊・データ等で管理。院外への持ち出しを禁止。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事運営課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事運営課
		高度の医療の研修の実績	庶務課
		閲覧実績	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事運営課
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事運営課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部
			各所属にて、簿冊・データ等で保管。院外への持ち出しを禁止。
			各所属にて、簿冊・データ等で保管。院外への持ち出しを禁止。

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	各所属にて、簿冊・データ等で保管。 院外への持ち出しを禁止。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	情報システム課
		医療安全管理部門の設置状況	庶務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	庶務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	庶務課
		職員研修の実施状況	庶務課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	庶務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。



(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 平川 弘聖	
閲覧担当者氏名	庶務課長 浅井 数也	
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室	
閲覧の手続の概要 閲覧の手続きについては、大阪市情報公開条例に則って情報公開しており、 公文書に関しては原則全てを対象としている。 なお、診療録ほか患者情報の閲覧は別に関係規定を定め運用を実施している。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	1 件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>組織及び体制、インシデント発生後の対応、インシデントの検討、情報共有と対策の立案・実施・評価、届出と公表、医療安全教育、医療安全相談窓口</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 ( 有 無 )</p> <p>・ 開催状況：年 1 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>大阪市立大学医学部附属病院における医療安全管理上の体制の確保、推進及び感染対策の円滑な実施を図る。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 9 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>「ヒューマンファクターズのコントロール」</p> <p>「医療安全の新たな段階 群馬大学病院事故・医療事故調査制度」</p> <p>「医療事故事例から学ぶ」</p> <p>「EARTH ～防ぎえた急変を撲滅する～」ほか</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( 有 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>病院の各部門は医療情報端末がオンラインで結ばれており、事故発生時には個々の端末からインシデントレポート及びアクシデントレポートを入力し報告を行うこととしている。</p> <p>報告されたレポートについては、医療安全管理部の専任安全管理者が毎日レポート内容を確認して、原因分析、改善策の検討等を行っている。また、必要に応じて各部門に詳細な調査や報告書を求めるとともに、改善の指示や情報提供、リスクマネージャ会議などで事例報告を行っている。また、特定の傾向が見られる事例については、個別の部会やワーキンググループを設けるなどして専門的な立場から事故防止対策の検討を行っている。</p> <p>一方、医療従事者については、安対マンスリーにより事故事例、再発防止策等を院内合周知すると共に、医療機能評価機構医療事故情報収集等事業の医療安全情報などを周知して注意喚起している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 感染の分類、組織及び体制、感染対策に関する教育・研修、感染発生の報告、感染発生時の対応、感染の調査とその対策、指針の閲覧	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 大阪市立大学医学部附属病院における医療安全管理上の体制の確保、推進及び感染対策の円滑な実施を図る。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年5回
・ 研修の主な内容： 「耐性菌、手指衛生、針刺し事故の理解のために」 「求められる感染制御 ～大阪市大病院の現状と課題」 「健全な病院経営に資するための感染症対策」 「耐性菌と抗菌薬適正使用」 「結核の感染対策」	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○サーベイランス活動（薬剤耐性菌・血液培養検出菌・抗菌薬・その他）の監視・報告・指導 ○感染症発生時の調査・監視・勧告・フォローアップ ○感染防止対策に関する現場への指導 ○新採用者および在職者への研修 ○その他のICT活動（環境ラウンド・感染防止対策ラウンド・相談対応・針刺し事故対応ほか）	

(注) 前年度の実績を記入すること。



(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 20回
・ 研修の主な内容： 医薬品の安全使用について（新規採用者研修） 静脈注射知識編 薬剤の知識（新規採用看護師） 処方せんの作成について（研修医卒後研修） 医薬品適正使用について～疑義照会、インシデント報告より～ 感染と抗菌薬について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有 無) ・ 業務の主な内容： 医薬品が適正に管理され、安全に使用されているかについて、定期的に診療科ならびに病棟を巡回し、医薬品安全管理チェックシートにより点検を実施している。点検結果を報告書にまとめ、医薬品安全管理責任者が確認し、当該部署に通知している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 水薬、検査薬のラベル記載を電子カルテの登録内容から印字できるようにし、手書きによる転記ミスの防止、見やすい表記に変更した。 抗がん剤の曝露防止のため、注射薬の混注は、閉鎖式接続器具を使用し、内服薬を調剤する際は、チャック付ビニール袋に入れるようにした。 電子カルテの中から、過去日の薬剤管理指導記録を検索しにくかったため、薬剤師ノートから医療スタッフが閲覧できるように変更し、情報共有が円滑に行えるようにした。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 201回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器・除細動装置・人工心肺補助循環装置・血液浄化装置・褥瘡予防マット・フットポンプについて安全使用のための合同研修会を開催した。また、シリンジポンプ・輸液ポンプ・人工呼吸器・除細動装置について新規採用看護師を対象とした研修会を看護部と合同で開催した。平成28年度の実績として部署別研修を合わせると、のべ201回の医療機器研修会を実施した。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置・補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動装置・閉鎖式保育器・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置・手動式人工蘇生器・その他(10品目以上)の医療機器・医療器具について保守点検計画を策定し、保守点検マニュアルに基づいた保守点検を実施した。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 厚生労働省やPMDA等から配信される医療機器不具合情報を随時収集し、院内に周知すべき内容については、医療機器安全性情報及び院内Web等での情報配信を行った。 2. 製造メーカー等から提供される回収(改修)情報に対して、臨床工学部で一括した情報収集を行い、これらの情報を関連部署に提供した。 3. MEセンターで中央管理されている医療機器については、更新計画を策定し、医療機器委員会を通じて計画的な更新と機種統一を進めている。 4. 医療機器の添付文書の内容については、電子カルテからPDFファイル形式で閲覧できるようにした。 5. 医療機器安全管理手順書を各部署に配布し、毎年、見直し改訂を行っている。 6. 院内で発生した医療機器に関する重大インシデントについては、随時「医療機器安全性情報報告書」として厚生労働省に報告している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有 無
<p>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>総括安全管理責任者として副院長職の医師を 1 名配置し、医療安全管理部門、医療安全協議会、医薬品安全管理責任者及び医療機器管理責任者を統括する体制を医療安全管理規程で定めている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 7 名 ) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>新規採用薬品のお知らせ、DI ニュース、医薬品安全性情報、その他医薬品に関する情報については、各部署へ情報提供するとともに電子カルテの掲示板に情報を掲載し周知している。また、重要な安全性情報は、当該薬品の処方歴のある医師に対して情報提供し、処方医から確認済みの署名を受け取っている。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認新規医薬品等の使用に関しては、病院倫理委員会で審査を行い、医療安全管理部内に設置した担当部門において未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の可否を決定している。平成 29 年 4 月以降、「F-18 フッ化ナトリウム」と「レトロビルシロップ」の 2 件の申請があり承認された。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (有) 無</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：整形外科 ， 職種 医師 ) (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ) (所属：化学療法センター， 職種 医師 ) (所属：医療安全管理部 ， 職種 薬剤師 ) (所属：感染症内科 ， 職種 医師 ) (所属：医療安全管理部 ， 職種 看護師 ) (所属：医療安全管理部 ， 職種 医師 ) (所属：医療安全管理部 ， 職種 臨床工学技士)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有 無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) 無</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療情報管理士5名が定期的に適切でない事例の確認を行い、主治医に対して連絡、確認を行う。 主治医への連絡は、電子カルテ上のプログレスノートに記載する等により実施している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・所属職員：専従（8）名、専任（ ）名、兼任（8）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（7）名 うち薬剤師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>○医療安全管理の方針を定め、各部門への周知徹底を図るため、医療安全協議会等の会議を定期的 に開催し、医療安全管理の推進を図る。 ○医療安全管理に関する講演会や講習会を開催し、病院全体に共通するテーマの職員研修を定期的 に行うことにより、医療スタッフの安全に関する意識の高揚を図る。 ○医療安全管理部に送信されたインシデントレポートについて、定期的リスクマネージャー等によ るレポート検討会を開催し、事故防止対策の検討を行う。また検討会の分析結果は安対マンスリーに 掲載し職員全員に周知する。 ○様々な課題について、医療安全管理部内にテーマに沿った部会を設置し、専門的な立場から問題解 決を図る。 ○院内を定期的にパトロールし、医療安全に関する規程や安全マニュアル順守状況、事故防止対策の 実施状況などを点検し、必要に応じて指導や安全マニュアル等の見直しを行う。 ○医療事故の再発防止策を実施した際は、防止策の遵守状況の確認及び効果調査を行う。 ○医療安全に資する診療内容のモニタリングとして、「手術が施行された肺血栓塞栓症予防策の実施 率」、「高齢者（75歳以上）における褥瘡対策の実施率」、「抗MRSA薬投与に対する薬物血中濃度測 定率」等の7項目について、データを集計して毎月医療安全協議会において院内周知している。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に 係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識に ついての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療 技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>○高難度新規医療技術を用いた医療提供の適否等の決定。 ○既に医療提供を承認している高難度新規医療技術に対し安全性や遵守事項に疑義が生じた場合、高 難度新規医療技術評価委員会を招集して継続の妥当性や実施条件の見直しについて諮問し、評価委員</p>	

会の答申を受け提供の取り消しや実施条件の見直しを行う。

○既に医療提供を承認している高難度新規医療技術の遵守状況等の確認のため、定例的に実施状況、診療記録等を確認して病院長及び医療安全協議会に報告する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 · 無 )
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有 · 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 · 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 · 無 )
- ・ 活動の主な内容：

○未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否等の決定

○既に医療提供を承認している未承認新規医薬品等に対し、その安全性や遵守事項に疑義が生じた場合、病院倫理委員会に対し継続の妥当性や実施条件の見直しについて諮問し、病院倫理委員会の答申を受け提供の取り消しや実施条件の見直しを検討する。

○既に医療提供を承認している未承認新規医薬品等の遵守状況等の確認のため、定例的に実施状況、診療記録等を確認して病院長及び医療安全協議会に報告する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 · 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 · 無 )

⑨ 監査委員会の設置状況

有 · 無

・ 監査委員会の開催状況：年 2 回

・ 活動の主な内容：

・ 統括安全管理者、医療安全管理部、医療安全協議会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め、又は必要に応じて調査を実施する。

・ 審議、調査の結果、理事長又は病院長に対し、必要に応じて医療に係る安全管理については是正措置を講ずるよう意見表明を行う。

・ 監査で確認された事項についてホームページで公表する。

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( 有 ·  無 )

・ 委員名簿の公表の有無 (  有 · 無 )

・ 委員の選定理由の公表の有無 (  有 · 無 )

・ 公表の方法：大阪市立大学医学部附属病院の病院ホームページへの記載

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長部研太郎	・原・国分・長 部法律事務所 ・弁護士	○	地方自治体において 倫理委員会等の委員 を歴任されるなど人 権や倫理に関する見 識を有するため。	有・ <del>無</del>	1
矢野 雅彦	・大阪府立成人 病センター副 院長 ・同 医療安全 管理部長		大阪府立成人病セン ターにおいて医療安 全管理部門の副部長 として従事され、また 医療事故調査委員会 の外部委員を歴任さ れるなど医療安全管 理に必要な知識及び 経験を有するため。	有・ <del>無</del>	1
辻 恵美子	・がん患者サポ ートの会「ぎん なん」代表		がん患者サポートの 会「ぎんなん」代表、 大阪府がん対策推進 委員会委員など公的 機関の委員を歴任さ れ、豊富な活動経験を 有するため。	有・ <del>無</del>	2
大脇 和子	・大阪市立大学 医学部附属病 院 副院長兼 看護部長		本院の副院長兼看護 部長として病院管理 運営や看護師育成な ど豊富な経験を有す るため。	<del>有</del> ・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年212件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年53件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象については医療安全管理部門へ53件報告があり、医療安全協議会を12回開催して、事故内容、原因究明、再発防止対策等の審議を行った。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：大阪国際がんセンター 11月30日実施予定）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：奈良県立医大病院 10月30日実施予定）・無）
- ・技術的助言の実施状況

特定機能病院間の相互立入りについては現時点では未実施であるが、他院への立ち入り後は医療に係る安全管理の改善のための技術的助言を行い、他院から立ち入りを受け入れた場合は技術的助言を受け、それに従って改善を行う予定である。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

場 所 病院1階に相談窓口①・②

相談内容 医療相談、医療安全相談、がん相談、患者申出療養等の相談

時間帯 月～金 9:00～17:15（休診日を除く）

対応する職員 看護師・MSW・PSW・事務職員

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全研修会を9回開催し、合計5,675名が参加。職員1人あたりの平均参加回数は、2.6回で、研修未参加者は0であった。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

9月27日に管理者研修として「学習型組織のためのリーダーシップ」を実施した。

今後、日本医療機能評価機構が主催する平成29年度特定機能病院管理者研修を受講予定である。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)